

# 海外食料需給レポート

(Monthly Report)

平成20年10月

農林水産省

# 目 次

I 穀物		
1 2008/09年度の国際的な穀物需給の概要	1	
【参考】2008/09年度穀物需給予測の主な改訂	2	
2 小麦		
(1) 国際的な小麦需給の概要	3	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア 米国	4	
イ カナダ	5	
ウ オーストラリア	5	
エ EU-27	6	
オ 中国	6	
カ インド	7	
キ ロシア	7	
ク アルゼンチン	8	
ケ ウクライナ	8	
3 とうもろこし		
(1) 国際的なとうもろこし需給の概要	9	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア 米国	10	
イ 中国	11	
ウ アルゼンチン	11	
エ ブラジル	12	
オ EU-27	12	
4 大麦		
(1) 国際的な大麦需給の概要	13	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア オーストラリア	14	
イ カナダ	14	
ウ 米国	15	
エ EU-27	16	
オ ウクライナ	16	
カ ロシア	17	
5 ソルガム		
(1) 国際的なソルガム需給の概要	18	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア 米国	19	
イ アルゼンチン	20	
ウ 中国	20	
エ オーストラリア	21	
オ インド	21	
6 米		
(1) 国際的な米需給の概要	22	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア 中国	23	
イ インド	23	
ウ インドネシア	24	
エ タイ	24	
オ ベトナム	25	
カ フィリピン	25	
II 油糧種子		
1 2008/09年度の国際的な油糧種子需給の概要	26	
【参考】2008/09年度油糧種子需給予測の主な改訂	27	
2 大豆		
(1) 国際的な大豆需給の概要	28	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア 米国	29	
イ ブラジル	30	
ウ カナダ	30	
エ 中国	31	
オ アルゼンチン	31	
3 なたね		
(1) 国際的ななたね需給の概要	32	
(2) 主要生産・輸出国等の需給状況		
ア カナダ	33	
イ オーストラリア	33	
ウ EU-27	34	
エ 中国	34	
オ インド	35	
III 今月のトピックス		
○ 米国におけるバイオエタノール政策・産業の展開と課題	36	
【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）	38	
【利用上の注意】	39	

# I 穀物

## 1 2008/09年度の国際的な穀物需給の概要

### ○2008/09年度の穀物需給（予測）のポイント

2008/09年度の穀物需給は、小麦が価格高騰を背景に世界的な増産となる中、米国のとうもろこしの作付減少に伴う飼料用需要の一部を代替し、穀物全体としては、消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

また、期末在庫量が積み上げられることから、穀物全体の需給は若干緩和するものの、低水準の期末在庫率が継続すると見込まれる。

#### 【生産量】

世界の穀物全体の生産量は、小麦を中心とした増加から前年度より85.6百万トン増加（4.0%）し、2203.7百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、EU、中国等で良好な天候等を反映した増産から生産量が増加しているものの、米国において連作障害への懸念などで作付けが縮小していることなどから生産量が減少、小麦については、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりなどで作付が拡大し、これまでの天候も比較的好ましい状況で推移したことなどから生産量が増加すると見込まれている。

#### 【消費量】

世界の穀物全体の消費量は、堅調な食用、飼料用の需要の増加に加え、とうもろこしのバイオ燃料需要の拡大などから、前年度より71.1百万トン増加（3.4%）し、2182.1百万トンとなる見込みである。

また、飼料に用いられる穀物については、品目間での代替が可能であり、品目間の相対価格の変動に伴い飼料用需要の移動が見られる。昨年度は、小麦価格の高騰によりとうもろこし、ソルガムへの移動がみられたが、本年度はとうもろこしの価格高騰による小麦等への移動が見込まれている。

#### 【貿易量】

世界の穀物全体の貿易量は、前年度より6.7百万トン減少（▲2.5%）し、261.9百万トンとなる見込みである。

品目別には、小麦については、輸出国であるEU、オーストラリア等の生産回復や飼料用需要の伸びなどから貿易量の増加が見込まれている。一方、とうもろこしについては、昨年度急増したEUの輸入の減少や飼料用需要の減少を背景として貿易量の減少が見込まれている。

#### 【期末在庫量】

世界の穀物全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから前年度より22.9百万トン増加（6.6%）し、370.4百万トンとなる見込みである。また、穀物全体の期末在庫率は、期末在庫量が積み増しされ、17.0%と0.5ポイント上昇するものの、引き続き低水準となる見込みである。

品目別には、小麦や米については、生産量の増加等から期末在庫量を積み増しし、期末在庫率も2割程度となり、需給の引き締まりはある程度緩和すると見込まれているものの、とうもろこしは消費量の増加に伴い、昨年度に積み上げた期末在庫を超えた取り崩しが必要と見られており、在庫率が低下し、需給の引き締まりを強めると見込まれている。

表－1 世界の穀物需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>2005.8</b>	<b>2118.1</b>	<b>2203.7</b>	<b>8.7</b>	<b>4.0</b>
穀物計					
小麦	596.3	610.9	680.2	3.9	11.3
粗粒穀物	989.1	1,077.0	1,090.2	3.5	1.2
(とうもろこし)	712.4	791.0	781.0	▲2.0	▲1.3
(大 麦)	137.4	133.2	153.4	3.5	15.1
(ソルガム)	57.0	63.2	63.3	1.2	0.1
米	420.4	430.2	433.2	1.2	0.7
<b>消費量</b>	<b>2054.1</b>	<b>2111.0</b>	<b>2182.1</b>	<b>8.0</b>	<b>3.4</b>
穀物計					
小麦	616.9	618.1	655.6	0.7	6.1
粗粒穀物	1,016.0	1,065.4	1,096.1	5.8	2.9
(とうもろこし)	728.5	776.8	799.1	2.6	2.9
(大 麦)	145.1	136.3	145.0	2.8	6.4
(ソルガム)	57.2	63.3	62.3	0.8	▲1.6
米	421.1	427.5	430.4	1.5	0.7
<b>うち、飼料用</b>	<b>741.7</b>	<b>752.9</b>	<b>778.2</b>	<b>6.2</b>	<b>3.4</b>
穀物計					
小麦	106.3	95.0	123.7	▲0.8	30.3
粗粒穀物	635.5	658.0	654.5	7.0	▲0.5
(とうもろこし)	477.8	499.9	491.1	4.8	▲1.8
(大 麦)	100.9	91.7	99.0	2.0	7.9
(ソルガム)	21.9	29.0	27.1	0.7	▲6.4
米	...	...	...	...	...
<b>貿易量</b>	<b>259.9</b>	<b>268.5</b>	<b>261.9</b>	<b>▲2.2</b>	<b>▲2.5</b>
穀物計					
小麦	111.2	114.9	123.2	0.3	7.3
粗粒穀物	117.4	123.3	110.4	▲2.6	▲10.5
(とうもろこし)	93.8	95.8	82.6	▲3.5	▲13.8
(大 麦)	15.2	15.5	20.0	0.9	29.0
(ソルガム)	5.5	9.2	5.0	▲0.0	▲46.0
米	31.3	30.4	28.3	0.1	▲6.7
<b>期末在庫量</b>	<b>340.4</b>	<b>347.5</b>	<b>370.4</b>	<b>3.1</b>	<b>6.6</b>
穀物計					
小麦	127.0	119.8	144.4	4.5	20.5
粗粒穀物	138.4	150.1	145.4	▲1.6	▲3.1
(とうもろこし)	108.7	122.9	106.1	▲3.9	▲13.7
(大 麦)	20.7	17.7	26.0	0.6	47.5
(ソルガム)	4.3	4.2	5.2	0.5	24.0
米	75.0	77.7	80.5	0.2	3.7
<b>期末在庫率</b>	<b>16.6%</b>	<b>16.5%</b>	<b>17.0%</b>	<b>0.1</b>	<b>0.5</b>
穀物計					
小麦	20.6%	19.4%	22.0%	0.7	2.6
粗粒穀物	13.6%	14.1%	13.3%	▲0.2	▲0.8
(とうもろこし)	14.9%	15.8%	13.3%	▲0.5	▲2.5
(大 麦)	14.3%	13.0%	18.0%	0.1	5.0
(ソルガム)	7.5%	6.6%	8.3%	0.6	1.7
米	17.8%	18.2%	18.7%	▲0.0	0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2008/09年度穀物需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量はとうもろこしがブラジル、米国で下方修正されたものの、小麦がカナダ、米国、ロシア、ウクライナ、大麦がEU、ロシア、ソルガムが米国などで上方修正され、穀物全体で8.7百万トン上方修正されている。また、消費量も各穀物とも上方修正され、穀物全体で8.0百万トン上方修正されている。消費量を上回る生産量の上方修正に加え期首在庫も上方修正されたことから、期末在庫量も3.1百万トン上方修正され、前月に引き続き需給は緩和傾向に修正された。

○ 小麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	3.9	0.7	▲ 0.8	0.3	...	4.5
米国	1.0	0.3	0.3	-	-	0.7
カナダ	1.9	0.2	0.2	1.0	-	0.7
オーストラリア	▲ 0.5	-	-	-	-	▲ 0.5
EU-27	▲ 0.0	▲ 1.0	▲ 2.0	-	-	1.0
中国	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	-
ロシア	1.0	1.5	1.0	-	-	▲ 0.6
アルゼンチン	▲ 0.5	-	-	▲ 0.5	-	▲ 0.0
ウクライナ	1.0	-	-	-	-	1.0

○ とうもろこし

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 2.0	2.6	4.8	▲ 4.8	...	▲ 3.9
米国	▲ 1.0	▲ 0.3	2.5	▲ 1.3	0.0	1.8
中国	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	-	1.8	1.8	▲ 2.0	-	▲ 0.3
ブラジル	▲ 2.0	2.5	2.0	-	-	▲ 5.7
EU-27	1.0	-	-	-	▲ 0.5	0.6

資料: USDA

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注: 期末在庫量の変更については、2007/08年度の需給データの改訂により、2008/09年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

○ 大麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	3.5	2.8	2.0	0.9	...	0.6
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
カナダ	0.3	1.0	1.0	-	-	▲ 0.7
米国	0.5	0.7	0.7	-	-	▲ 0.2
EU-27	1.6	-	-	1.0	0.1	0.7
ウクライナ	-	-	-	▲ 1.0	-	▲ 0.0
ロシア	1.0	0.5	0.2	-	-	0.7

○ ソルガム

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.2	0.8	0.7	▲ 0.0	...	0.5
米国	1.2	0.9	0.9	0.3	-	0.1
アルゼンチン	-	-	-	▲ 0.3	-	0.3
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
中国	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	-

○ 米

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	1.2	1.5	...	0.1	...	0.2
中国	-	-	...	-	-	-
インド	-	-	...	-	-	-
インドネシア	-	-	...	-	-	-
タイ	-	-	...	-	-	-
ベトナム	-	-	...	-	-	-
フィリピン	-	-	...	-	-	-

## 2 小麦

### (1) 国際的な小麦需給の概要

#### ○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移していることなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締めは緩和すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年の干ばつや天候不順による単収低下が回復したことなどから、EU、米国、ロシア等で増産が見込まれ、世界全体では前年度より69.3百万トン増加（11.3%）し、680.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.9百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、米国、ロシアが良好な天候等を反映して上方修正され、オーストラリア、EUが下方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、中国等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より37.5百万トン増加（6.1%）し、655.6百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン上方修正されており、国別にはロシア、米国が上方修正され、EUが下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、8.3百万トン増加（7.3%）し、123.2百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、オーストラリア、EU等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、モロッコ、アルジェリア等で輸入量の増加が、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別にはカナダの輸出量、アルジェリア、エジプトの輸入量が上方修正され、アルゼンチンの輸出量、モロッコ、インドネシアの輸入量が下方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、オーストラリア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より24.6百万トン増加（20.5%）し、144.4百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も22.0%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、米国、カナダが上方修正され、ロシア、オーストラリアで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>596.3</b>	<b>610.9</b>	<b>680.2</b>	<b>3.9</b>	<b>11.3</b>
EU-27	124.9	119.3	147.2	▲ 0.0	23.4
中国	108.5	109.9	114.0	-	3.8
インド	69.4	75.8	78.4	-	3.4
米国	49.3	56.2	68.0	1.0	20.9
ロシア	44.9	49.4	61.0	1.0	23.5
カナダ	25.3	20.1	27.3	1.9	36.2
オーストラリア	10.8	13.0	21.5	▲ 0.5	64.9
<b>消費量</b>	<b>616.9</b>	<b>618.1</b>	<b>655.6</b>	<b>0.7</b>	<b>6.1</b>
うち飼料用	106.3	95.0	123.7	▲ 0.8	30.3
EU-27	125.5	117.7	131.5	▲ 1.0	11.7
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.7	77.6	-	2.5
ロシア	36.4	37.7	43.0	1.5	14.1
米国	31.0	29.0	35.5	0.3	22.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
<b>貿易量</b>	<b>111.2</b>	<b>114.9</b>	<b>123.2</b>	<b>0.3</b>	<b>7.3</b>
(輸出)					
米国	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
カナダ	19.4	16.1	18.5	1.0	14.8
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	-	87.4
EU-27	13.9	12.2	18.0	-	47.2
ロシア	10.8	12.2	14.0	-	14.6
アルゼンチン	10.5	10.0	7.0	▲ 0.5	▲ 30.0
ウクライナ	3.4	1.2	9.0	-	625.8
(輸入)					
エジプト	7.8	7.3	7.7	0.2	5.5
ブラジル	7.6	7.0	7.0	-	0.0
アルジェリア	5.5	4.9	5.9	0.4	20.7
インドネシア	5.0	5.6	5.2	▲ 0.1	▲ 6.4
日本	5.5	5.7	5.7	-	▲ 0.8
EU-27	5.1	6.9	5.0	-	▲ 27.8
モロッコ	2.4	1.8	4.2	▲ 0.5	132.7
<b>期末在庫量</b>	<b>127.0</b>	<b>119.8</b>	<b>144.4</b>	<b>4.5</b>	<b>20.5</b>
中国	38.5	41.5	46.6	-	12.1
米国	12.4	8.3	16.4	0.7	96.6
EU-27	14.0	10.3	13.0	1.0	26.0
オーストラリア	4.4	3.9	5.3	▲ 0.5	35.4
インド	4.5	6.4	7.2	-	11.7
ロシア	2.4	2.2	6.6	▲ 0.6	199.6
カナダ	6.8	4.8	6.1	0.7	27.0
<b>期末在庫率</b>	<b>20.6%</b>	<b>19.4%</b>	<b>22.0%</b>	<b>0.7</b>	<b>2.6</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

## (2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、前年度より11.8百万トン増加（20.9%）し、68.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より6.5百万トン増加（22.4%）し、35.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲20.9%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、8.1百万トン増加（96.6%）と大幅に積み増しされ、16.4百万トンとなり、期末在庫率も26.1%（13.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積が下方修正されたものの、単収の上方修正による影響がより大きかったため、生産量が1.0百万トン上方修正された。また、飼料用需要を中心に、消費量が0.3百万トン上方修正されている。これらを受け、期末在庫量は0.7百万トン上方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

米国の冬小麦は2008/09年度の収穫を終え、作柄については、優良が10%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では76%と前年度の最終の75%を上回っている。また、2009/10年度の作付けが始まり、主要18州での進捗は84%と過去5年の平均に比べ4ポイント（前年同時期と比較し2ポイント）遅れている。発芽率は69%と過去5年の平均と同じであり、前年同時期と比較し3ポイント進んでいる。小麦の主要産地で天候に恵まれたことから、作付、発芽とも順調に進んでいる。

春小麦の作柄については、優良が14%と前年最終と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）  
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度10.0%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.1%）

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.3	56.2	68.0	1.0	20.9
消費量	31.0	29.0	35.5	0.3	22.4
うち飼料用	3.3	0.8	7.1	0.3	763.4
輸出量	24.7	34.4	27.2	-	▲20.9
輸入量	3.3	3.1	2.7	-	▲11.4
期末在庫量	12.4	8.3	16.4	0.7	96.6
期末在庫率	22.3%	13.1%	26.1%	1.1	13.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.54	▲0.36	9.2
単収(t/ha)	2.60	2.72	3.02	0.09	11.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

#### ○ 米國小麦の生育進捗状況及び作柄（10月26日現在）

〔生育進捗状況（冬小麦：主要18州）〕

冬小麦 作付率 84%（平年差：▲4 p、前年差：▲2 p）  
（2009/10年度）発芽率 69%（平年差：±0 p、前年差：+3 p）

〔作柄（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2008/09	10	36	30	14	10
	前年度同時期	14	34	27	16	9
	前年度最終	12	35	28	15	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」冬小麦の作柄については6月22日報告のデータ、春小麦の作柄については8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

## イ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より7.2百万トン増加(36.2%)し、27.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.5百万トン増加(23.6%)し、7.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.4百万トン増加(14.8%)し、18.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.3百万トン増加(27.0%)し、6.1百万トンとなり、期末在庫率も23.3%(1.8ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積および単収が上方修正されたことを受け、生産量が1.9百万トン上方修正されている。生産量の増加に伴い、輸出可能な小麦の量が増大するため、輸出量も1.0百万トン上方修正されている。また、飼料用需要を中心に、消費量が0.2百万トン上方修正され、期末在庫量も0.7百万トン上方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度は生育の遅れによって収穫が遅れていたが、9月に雨が少なかったことから収穫の遅れを取り戻すことができた。また、収穫の遅れに伴い早霜の影響が懸念されていたが、霜の発生が遅かったことから大きな霜の被害は発生していない。

## ウ オーストラリア

### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、前年度より8.5百万トン増加(64.9%)し、21.5百万トンとなる見込みである。収穫面積が、降水量の増大、小麦価格の高騰による生産意欲増大、前年度の牧草地からの転換分などから過去最大となると見込まれる。

消費量は、前年度並の6.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(87.4%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.4百万トン増加(35.4%)し、5.3百万トンと積み増しされるが、期末在庫率は26.0%(2.4ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥が続いたことを受けて収穫面積が下方修正され、生産量が0.5百万トン下方修正された。これに伴い期末在庫量が0.5百万トン下方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

8月末までは降水量が少なく乾燥した天候が続いていたが、9月の降水量はウェスタンオーストラリア州やニューサウスウェールズ州北部などで平年を上回った。しかし、ウェスタンオーストラリア州では、霜の到来により、雨による土壌水分改善の効果は小さくなってしまった。また、ニューサウスウェールズ州南部やビクトリア州北部は乾燥が続いている。

今後の天候の状況によって、小麦の生産量予測はさらに引き下げられる可能性がある。引き続き天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース21.5%)  
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 4.0%)  
輸出量シェア 3位 (2008/09年度15.0%)

表-3 カナダの小麦需給(市場年度: 8月~翌年7月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	25.3	20.1	27.3 (25.4)	1.9	36.2	
消費量	9.0	6.3	7.8 (8.4)	0.2	23.6	
うち飼料用	4.8	2.1	3.2 (3.7)	0.2	53.8	
輸出量	19.4	16.1	18.5 (16.9)	1.0	14.8	
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 23.1	
期末在庫量	6.8	4.8	6.1 (5.0)	0.7	27.0	
期末在庫率	23.9%	21.5%	23.3% (19.8%)	1.7	1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.10 (9.96)	0.10	16.9	
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.70 (2.55)	0.16	16.4	
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「World Agricultural Production」、 AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (September 17, 2008)」						

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース18.0%)  
世界の生産量シェア 7位 (2008/09年度 3.2%)  
輸出量シェア 4位 (2008/09年度11.4%)

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度: 10月~翌年9月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	10.8	13.0	21.5 (22.5)	▲ 0.5	64.9	
消費量	7.4	6.2	6.2 (6.7)	-	0.0	
うち飼料用	4.7	3.5	3.5 (3.7)	-	0.0	
輸出量	8.7	7.5	14.0 (15.7)	-	87.4	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 27.3	
期末在庫量	4.4	3.9	5.3 (…)	▲ 0.5	35.4	
期末在庫率	27.3%	28.4%	26.0% (…)	▲ 2.4	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	13.50 (13.55)	▲ 0.50	9.3	
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.59 (1.66)	0.02	50.0	
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「World Agricultural Production」、 ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (September 2008)」						

## エ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、価格高騰による作付け意欲の拡大や単収の増加などにより、前年度より27.9百万トン増加(23.4%)し、147.2百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし、ソルガム、大豆粕の価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より13.8百万トン増加(11.7%)し、131.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから5.8百万トン増加(47.2%)し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.7百万トン増加(26.0%)し、13.0百万トンとなり、期末在庫率も8.7%(0.8ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量がわずかに下方修正されている。また、消費量は1.0百万トン下方修正された。その結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

小麦の収穫は終了した。フランスとドイツでは、収穫された小麦のたん白含有率が昨年より低くなっている。

### 【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入することを決定した。

## オ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収の増加が見込まれ、前年度より4.1百万トン増加(3.8%)し、114.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.8百万トン減少(▲29.6%)し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、5.1百万トン増加(12.1%)し、46.6百万トンとなり、期末在庫率も42.7%(3.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了しており、2009/10年度の作付けが始まっている。主な産地である山東省と河南省では、夏トウモロコシの収穫が遅れた影響で、冬小麦の作付けの開始が1週間から2週間遅れた。

### 【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課している。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度21.8%)〕  
〔輸出量シェア2位(2008/09年度14.6%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.3	147.2 (147.6)	▲0.0	23.4
消費量	125.5	117.7	131.5 (131.0)	▲1.0	11.7
うち飼料用	60.2	52.4	64.0 (59.1)	▲2.0	22.0
輸出量	13.9	12.2	18.0 (18.1)	-	47.2
輸入量	5.1	6.9	5.0 (6.5)	-	▲27.8
期末在庫量	14.0	10.3	13.0 (15.0)	1.0	26.0
期末在庫率	10.1%	7.9%	8.7% (10.0%)	0.7	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.72	26.41 (…)	▲0.29	6.9
単収(t/ha)	5.10	4.83	5.57 (…)	0.06	15.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain:World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

注:1)年度区分は、2008/09年度についてみると、生産量は北半球の2008年産冬小

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.8%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.9	114.0 (112.5)	-	3.8
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	2.0 (2.1)	-	▲29.6
輸入量	0.4	0.1	0.0 (0.1)	-	▲40.0
期末在庫量	38.5	41.5	46.6 (…)	-	12.1
期末在庫率	36.7%	38.9%	42.7% (…)	-	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.96	23.10	23.40 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.72	4.76	4.87 (…)	-	2.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain:World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

## カ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.6百万トン増加（3.4%）し、過去最大の78.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加（2.5%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度から1.9百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン上昇（11.7%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.2%（0.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける小麦の収穫は、4月～5月に順調に終了した。2009/10年度の作付は、11月頃から始まる予定である。

### 【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.8%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.4 (78.4)	-	3.4
消費量	73.4	75.7	77.6 (…)	-	2.5
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸 入 量	6.7	1.9	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	11.7
期末在庫率	6.1%	8.5%	9.2% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.00 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.80 (…)	-	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

## キ ロシア

### 【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことなどから、前年度より11.6百万トン増加（23.5%）し、61.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より5.3百万トン増加（14.1%）し、43.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.8百万トン増加（14.6%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.4百万トン増加（199.6%）し、6.6百万トンとなり、期末在庫率も11.6%（7.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と単収の上方修正を受け、生産量が1.0百万トン上方修正された。消費量は1.5百万トン上方修正されている。この結果、期末在庫量は0.6百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ロシア連邦全体の収穫は終了している。なお、生産量が非常に多かったため、国内における保管倉庫不足が問題となっている。

### 【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 9.0%））  
輸出量シェア4位（2008/09年度11.4%）

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	61.0 (58.0)	1.0	23.5
消費量	36.4	37.7	43.0 (…)	1.5	14.1
うち飼料用	14.1	15.1	19.0 (…)	1.0	26.2
輸 出 量	10.8	12.2	14.0 (13.5)	-	14.6
輸 入 量	0.9	0.3	0.4 (0.4)	-	17.6
期末在庫量	2.4	2.2	6.6 (…)	▲ 0.6	199.6
期末在庫率	5.0%	4.4%	11.6% (…)	▲ 1.4	7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.70 (…)	0.10	9.0
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.28 (…)	0.02	12.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

## ク アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少などから前年度より4.0百万トン減少（▲25.0%）し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから3.0百万トン減少（▲30.0%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲54.5%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率も3.2%（2.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥した天候が続いていることから収穫面積が下方修正された影響を受け、生産量が0.5百万トン下方修正されている。また、生産量の修正に伴い、輸出量も0.5百万トン下方修正されている。

### 【生育進捗状況及び作柄】

乾燥が続いており、小麦の生育に悪影響が発生している。また、気温の低下によって、霜の被害も発生し、小麦の品質が低下する可能性がある。引き続き天候への注視が必要である。

### 【貿易情報】

輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等が今年3月から断続的にストライキを実施。その後、7月に同制度の関連法案は廃案となった。なお、10月にも農家がアルゼンチン政府の農業政策に抗議するストライキを6日間行った。また、10月14日現在、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため輸出商品手続きを停止中。

## ケ ウクライナ

### 【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことなどから、前年度より11.6百万トン増加（83.5%）し、25.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.1百万トン増加（8.5%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.8百万トン増加（625.8%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.6百万トン増加（169.9%）し4.1百万トンと増加し、期末在庫率は18.0%（7.1ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫結果を受けて単収が上方修正され、生産量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの冬小麦の収穫は終了した。食用品質の小麦は、2007/08年度は小麦生産量全体の40%であったが、2008/09年度は11%にまで低下する見込みである。

### 【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

## （世界の輸出量シェア7位（2008/09年度 5.7%）

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	16.0	12.0 (13.0)	▲ 0.5	▲ 25.0
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-	0.9
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	10.5	10.0	7.0 (8.6)	▲ 0.5	▲ 30.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	0.3	0.9	0.4 (0.5)	▲ 0.0	▲ 54.5
期末在庫率	2.0%	5.7%	3.2% (3.8%)	0.0	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.29	5.68	4.32 (…)	▲ 0.18	▲ 23.9
単収(t/ha)	2.88	2.82	2.78 (…)	-	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

## （世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.3%）

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	13.9	25.5 (24.0)	1.0	83.5
消費量	11.7	12.9	14.0 (…)	-	8.5
うち飼料用	2.1	3.1	4.0 (…)	-	29.0
輸出量	3.4	1.2	9.0 (8.0)	-	625.8
輸入量	0.1	0.3	0.1 (0.1)	-	▲ 69.7
期末在庫量	1.4	1.5	4.1 (0.0)	1.0	169.9
期末在庫率	9.5%	10.8%	18.0% (…)	4.3	7.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.00 (…)	-	17.6
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.64 (…)	0.14	55.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

### 3 とうもろこし

#### (1) 国際的なとうもろこし需給の概要

##### ○2008/09年度のとうもろこし需給（予測）のポイント

とうもろこしの供給面では、EU、中国等で増加するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国において昨年度に拡大した作付けが今年度は縮小に転じ、生産量が減少することが見込まれることから世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、米国でエタノール原料用需要、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、消費量が生産量を上回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下し、世界のとうもろこし需給は引き締まりを強めると見込まれる。

##### 【生産量】

生産量は、EU、中国等で増加するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国において作付け縮小などにより減少が見込まれ、世界全体では前年度より10.0百万トン減少（▲1.3%）し、781.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.0百万トン下方修正されており、国別にはブラジルと米国が下方修正され、EUが上方修正された。

##### 【消費量】

消費量は、米国でエタノール原料用需要、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より22.3百万トン増加（2.9%）し、799.1百万トンとなる見込みである。なお、世界全体の飼料用需要の減少見込みは、米国での飼料用需要の減少が大きく影響している。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.6百万トン上方修正されており、国別にはブラジルの飼料用需要が上方修正、メキシコと米国が下方修正された。

##### 【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、前年度より13.2百万トン減少（▲13.8%）し、82.6百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の6割を占める米国で輸出量の減少が、生産量の増加するウクライナ等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、EUで生産量の回復から輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.5百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチンと米国の輸出量、EU、メキシコの輸入量が下方修正された。

##### 【期末在庫量】

期末在庫量は、消費量が生産量を上回ることから、米国、中国等で取り崩され、世界全体では前年度より16.8百万トン減少（▲13.7%）し、106.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も13.3%（2.5ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.9百万トン下方修正されており、国別にはブラジルが下方修正、米国とEUが上方修正された。

表－1 世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>712.4</b>	<b>791.0</b>	<b>781.0</b>	<b>▲2.0</b>	<b>▲1.3</b>
米国	267.6	332.1	305.7	▲1.0	▲8.0
中国	151.6	151.8	156.0	-	2.7
ブラジル	51.0	58.6	55.0	▲2.0	▲6.1
EU-27	53.8	47.4	59.2	1.0	24.9
アルゼンチン	22.5	20.5	19.0	-	▲7.3
メキシコ	22.4	22.7	24.0	-	6.0
インド	15.1	19.3	18.0	-	▲6.8
<b>消費量</b>	<b>728.5</b>	<b>776.8</b>	<b>799.1</b>	<b>2.6</b>	<b>2.9</b>
うち飼料用	477.8	499.9	491.1	4.8	▲1.8
米国	230.8	262.6	270.1	▲0.3	2.9
中国	145.0	149.0	158.0	-	6.0
EU-27	62.3	62.0	61.0	-	▲1.6
ブラジル	41.0	45.0	47.5	2.5	5.6
メキシコ	30.7	32.0	32.5	▲0.5	1.6
インド	13.9	16.9	16.1	-	▲4.7
日本	16.5	16.5	16.1	-	▲2.4
<b>貿易量</b>	<b>93.8</b>	<b>95.8</b>	<b>82.6</b>	<b>▲3.5</b>	<b>▲13.8</b>
(輸出)					
米国	54.0	61.9	49.5	▲1.3	▲19.9
アルゼンチン	15.3	15.0	11.0	▲2.0	▲26.7
ブラジル	10.8	7.5	9.0	-	20.0
ウクライナ	1.0	2.0	3.0	-	50.0
南アフリカ	0.5	1.5	2.5	-	66.7
パラグアイ	2.1	1.5	1.5	-	0.0
インド	1.2	2.2	1.5	-	▲31.8
(輸入)					
日本	16.7	16.6	16.1	-	▲3.0
メキシコ	8.9	9.2	9.0	▲0.5	▲2.2
韓国	8.7	9.1	7.7	-	▲15.4
EU-27	7.1	13.5	2.5	▲0.5	▲81.5
台湾	4.3	4.2	4.2	-	0.0
エジプト	4.8	4.2	4.3	-	2.4
コロンビア	3.4	3.2	3.4	-	6.3
<b>期末在庫量</b>	<b>108.7</b>	<b>122.9</b>	<b>106.1</b>	<b>▲3.9</b>	<b>▲13.7</b>
中国	36.6	38.9	36.5	-	▲6.2
米国	33.1	41.3	27.6	1.8	▲33.0
ブラジル	3.6	10.2	9.2	▲5.7	▲9.8
EU-27	7.4	5.7	5.4	0.6	▲6.1
メキシコ	3.1	2.8	3.2	-	14.1
南アフリカ	1.7	3.3	2.9	-	▲12.3
ロシア	3.1	2.8	3.2	-	14.1
<b>期末在庫率</b>	<b>14.9%</b>	<b>15.8%</b>	<b>13.3%</b>	<b>▲0.5</b>	<b>▲2.5</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」

(2) とうもろこしの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、連作障害への懸念や原油価格高騰等によるコスト高により、昨年度に大幅に拡大した作付けが縮小しており、前年度より26.4百万トン減少（▲8.0%）し、305.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料に用いられるとうもろこしの価格高騰による肉類生産の縮小に伴い飼料用需要の減少が見込まれる一方で、エタノール原料用需要の増加が見込まれることから前年度より7.5百万トン増加（2.9%）し、270.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、EUの輸入急減と米国以外の国の増産に伴う国際貿易市場での競争を背景として、前年度より12.4百万トン減少（▲19.9%）し、49.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より13.7百万トン減少（▲33.0%）と取り崩され、27.6百万トンとなり、期末在庫率も8.6%（4.1ポイント減）まで低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の消費量が1.4百万トン下方修正され、輸出量が0.3百万トン上方修正されたことから、2008/09年度の期首在庫量が1.3百万トン上方修正された。収穫面積が下方修正されたことから生産量が1.0百万トン下方修正され、生産量の下方修正やエタノール用需要がガソリン消費量の減少により2.5百万トン下方修正されたことから消費量が0.3百万トン下方修正され、輸出量が1.3百万トン下方修正された。結果、期末在庫量が1.8百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のとうもろこしの主要18州の生育進捗状況については、全体の96%が成熟期を迎えており、この春は気温が低く中西部の洪水に代表されるように雨も多く初期生育が遅れたことから、過去5年の平均に比べ3ポイント（前年に比べ4ポイント）ほど進捗が遅れている。収穫率は39%で、過去5年の平均に比べ27ポイント（前年に比べ31ポイント）ほど進捗が遅れている。

作柄については、優良～良が64%と前年度の最終（47%）を上回っている。

これまで登熟期の天候は、おおむね良好に推移したが、降雨により収穫作業の遅れが懸念されている。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース 93.5%）  
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度 39.1%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度 60.9%）

表-2 米国のとうもろこし需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	267.6	332.1	305.7	▲ 1.0	▲ 8.0
消費量	230.8	262.6	270.1	▲ 0.3	2.9
うち飼料用	142.1	152.4	134.6	2.5	▲ 11.7
エタノール用	53.8	76.2	101.6	▲ 2.5	33.3
輸 出 量	54.0	61.9	49.5	▲ 1.3	▲ 19.9
輸 入 量	0.3	0.5	0.4	0.0	▲ 17.2
期末在庫量	33.1	41.3	27.6	1.8	▲ 33.0
期末在庫率	11.6%	12.7%	8.6%	0.6	▲ 4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.59	35.02	31.65	▲ 0.44	▲ 9.6
単収(t/ha)	9.36	9.48	9.66	0.10	1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」

○ 米国とうもろこしの生育進捗状況及び作柄（10月26日現在）

〔生育進捗状況〕

成熟率 96%（平年差：▲3 p、前年差：▲4 p）  
収穫率 39%（平年差：▲27 p、前年差：▲31 p）

〔作柄〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
とうもろこし	2008/09	17	47	25	8	3
	前年度同時期	...	...	...	...	...
	前年度最終	12	35	28	15	10

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、10月19日現在のデータに前年度同時期の情報は含まれていない。

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

## イ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、日照と高い気温、豊富な降雨に恵まれ前年度より4.2百万トン増加(2.7%)し、156.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要を中心に前年度より9.0百万トン増加(6.0%)し、158.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同水準の0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より2.4百万トン減少(▲6.2%)し、36.5百万トンとなり、期末在庫率も23.0%(3.0ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

中国のとうもろこしの収穫は9月中・下旬から始まり、現在、河北地域は終了し、東北地域は約8割終了した。また、9月の長雨の影響で新穀の収穫が平年よりやや遅れている。しかし、生育を左右する7～8月には好天に恵まれたことから、全体的に豊作が期待されている。

### 【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を課している。

## ウ アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、肥料価格の高騰をはじめとした生産コスト高などが農家の生産意欲を抑え、大豆等の作付けにシフトしたことや長引く干ばつの影響から収穫面積は減少することから、前年度より1.5百万トン減少(▲7.3%)し、19.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加に伴い前年度より0.5百万トン増加(7.1%)し、7.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから前年度より4.0百万トン減少(▲26.7%)し、11.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.5百万トン増加(312.5%)し、0.7百万トンとなり、期末在庫率も3.6%(2.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の消費量が0.5百万トン上方修正された。このことから2008/09年度の期首在庫量が0.5百万トン下方修正されたこと、消費量が飼料用需要の増加から1.8百万トン上方修正され、輸出量が2.0百万トン下方修正されたことから、期末在庫量は0.3百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンの1期目のとうもろこしの作付けは、8月から始まり、10月中も続けられる。乾燥が激しく作付けが進まなかったが、10月第2週の降雨により作付けが進み、10月23日現在での作付進捗率は51%となっている。12月から2月にかけては、2期目の作付けが行われる。

### 【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年2月に再開されたが、3月から9月までに13.0百万トンが輸出されたとみられ、9月中旬頃から輸出登録を停止した。再開時期は未定となっている。なお、輸出業者が輸出税を前払いすれば、申告から120日以内に出荷、船積みすれば良いこととなっている。

〔我が国の輸入先国シェア2位(2007年数量ベース 3.9%)  
世界の生産量シェア 2位(2008/09年度 19.8%)〕

表-3 中国のとうもろこし需給(市場年度:10月～翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.6	151.8	156.0 (156.0)	-	2.7
消費量	145.0	149.0	158.0 (156.7)	-	6.0
うち飼料用	104.0	105.0	113.0 (106.0)	-	7.6
輸出量	5.3	0.6	0.5 (0.5)	-	▲16.7
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.2)	-	100.0
期末在庫量	36.6	38.9	36.5 (47.2)	-	▲6.2
期末在庫率	24.4%	26.0%	23.0% (30.0%)	-	▲3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.90	28.00	27.80 (...)	-	▲0.7
単収(t/ha)	5.43	5.42	5.61 (...)	-	3.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain:World Markets and Trade」  
IGC「World Agricultural Production」  
IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

〔我が国の輸入先国シェア3位(2007年数量ベース 2.3%)  
世界の生産量シェア 6位(2008/09年度 2.4%)  
輸出量シェア 2位(2008/09年度 13.5%)〕

表-4 アルゼンチンのとうもろこし需給  
(市場年度:翌年3月～翌々年2月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.5	20.5	19.0 (20.0)	-	▲7.3
消費量	6.7	7.0	7.5 (6.4)	1.8	7.1
うち飼料用	4.8	5.1	5.6 (4.6)	1.8	9.8
輸出量	15.3	15.0	11.0 (13.6)	▲2.0	▲26.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
期末在庫量	1.7	0.2	0.7 (0.6)	▲0.3	312.5
期末在庫率	7.5%	0.7%	3.6% (2.8%)	▲1.6	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.80	3.21	2.70 (...)	-	▲15.9
単収(t/ha)	8.04	6.39	7.04 (...)	-	10.2

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain:World Markets and Trade」  
IGC「World Agricultural Production」  
IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

## エ ブラジル

### 【需給状況】

ブラジルの生産量は、とうもろこし価格の低下と肥料価格の高騰をはじめとした生産コスト高などが農家の生産意欲を減退させ、作付面積が減少することなどから、前年度より3.6百万トン減少（▲6.1%）し、55.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より2.5百万トン増加（5.6%）し、47.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.5百万トン増加（20.0%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より1.0百万トン減少（▲9.8%）し、9.2百万トンとなり、期末在庫率も16.4%（3.2ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度消費量が2.5百万トン上方修正され、輸出量が1.5百万トン、輸入量が0.2百万トン下方修正された。このことから、2008/09年度の期首在庫量が1.2百万トン下方修正されたこと、生産量が収穫面積の減少から2.0百万トン下方修正され、消費量が2.5百万トン上方修正されたことから、期末在庫量が5.7百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの夏とうもろこしの作付けは10月下旬から本格化する。

なお、2007/08年度の冬とうもろこしは、天候がおおむね良好に推移し、収穫は順調に終了した。

## オ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、おおむね良好な天候に恵まれ、昨年度の干ばつの影響を受けたハンガリー、ルーマニア等の単収の回復などから前年度より11.8百万トン増加（24.9%）し、59.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、小麦の生産回復により飼料用需要が減少することから前年度より1.0百万トン減少（▲1.6%）し、61.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、生産量の回復などから前年度より11.0百万トン減少（▲81.5%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、消費量が生産量を上回ることから前年度より0.3百万トン減少（▲6.1%）し、5.4百万トンとなり、期末在庫率も8.7%（0.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積、単収がともに上方修正されたため生産量が1.0百万トン上方修正され、輸入量が0.5百万トン下方修正されたことから期末在庫量が0.6百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

EU諸国においては、おおむね良好な作柄が見込まれている。

### 【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入することを決定した。

〔世界の生産量シェア4位（2008/09年度 7.0%）  
輸出量シェア3位（2008/09年度 11.1%）〕

表-5 ブラジルのとうもろこし需給

（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.0	58.6	55.0 (55.0)	▲ 2.0	▲ 6.1
消費量	41.0	45.0	47.5 (44.7)	2.5	5.6
うち飼料用	34.5	38.0	40.0 (38.0)	2.0	5.3
輸出量	10.8	7.5	9.0 (10.5)	-	20.0
輸入量	1.4	0.6	0.5 (0.8)	-	▲ 9.1
期末在庫量	3.6	10.2	9.2 (10.0)	▲ 5.7	▲ 9.8
期末在庫率	6.9%	19.5%	16.4% (18.2%)	▲ 11.3	▲ 3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.00	14.70	14.30 (…)	▲ 0.50	▲ 2.7
単収(t/ha)	3.64	3.99	3.85 (…)	-	▲ 3.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度 7.6%））

表-6 EU-27のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	53.8	47.4	59.2 (61.6)	1.0	24.9
消費量	62.3	62.0	61.0 (63.1)	-	▲ 1.6
うち飼料用	48.7	49.0	47.0 (48.5)	-	▲ 4.1
輸出量	0.7	0.5	1.0 (0.8)	-	100.0
輸入量	7.1	13.5	2.5 (3.5)	▲ 0.5	▲ 81.5
期末在庫量	7.4	5.7	5.4 (7.1)	0.6	▲ 6.1
期末在庫率	11.7%	9.2%	8.7% (11.0%)	0.9	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.49	8.39	8.78 (…)	0.04	4.7
単収(t/ha)	6.34	5.64	6.73 (…)	0.08	19.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

#### 4 大麦

##### (1) 国際的な大麦需給の概要

###### ○2008/09年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。  
 需要面では、生産の拡大ととうもろこし価格の高騰の影響を受け、飼料用需要の回復が見られるなど、消費量の増加も見込まれている。  
 期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われると見込まれる。

###### 【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲やこれまでの天候が比較的良好に推移したことから、昨年の干ばつや天候不順による単収低下が回復し、EU、ウクライナ、ロシア等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より20.2百万トン増加（15.1%）し、153.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシア、米国、カナダが良好な天候等を反映して上方修正された。

###### 【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にロシア、EU、米国、カナダの主要消費国で増加が見込まれ、世界全体では前年度より8.7百万トン増加（6.4%）し、145.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.8百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、ロシア、米国が上方修正された。

###### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、4.5百万トン増加（29.0%）し、20.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では生産の回復が見込まれているウクライナ、ロシア等で輸出量の増加が見込まれているが、カナダ、カザフスタンで減少が見込まれている。輸入国では、イラン等で輸入量が増加すると見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界で0.9百万トン上方修正されている。国別にはEUの輸出量、シリアの輸入量が上方修正された。

###### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、EU、ロシア、ウクライナ等で積み増しされ、世界全体では前年度より8.3百万トン増加（47.5%）し、26.0百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は18.0%（5.0ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別にはEU、ロシアが上方修正され、米国、カナダ、ウクライナが下方修正された。

表－1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>137.4</b>	<b>133.2</b>	<b>153.4</b>	<b>3.5</b>	<b>15.1</b>
EU-27	56.2	57.8	64.4	1.6	11.5
ロシア	18.1	15.7	22.0	1.0	40.6
カナダ	9.6	11.0	11.2	0.3	1.8
ウクライナ	11.4	6.0	12.5	-	108.3
オーストラリア	4.3	5.9	7.5	-	26.7
トルコ	7.5	6.0	6.0	-	0.0
米国	3.9	4.6	5.2	0.5	13.1
<b>消費量</b>	<b>145.1</b>	<b>136.3</b>	<b>145.0</b>	<b>2.8</b>	<b>6.4</b>
うち飼料用	100.9	91.7	99.0	2.0	7.9
EU-27	55.9	54.7	55.5	-	1.5
ロシア	16.4	15.1	17.3	0.5	15.0
カナダ	10.2	7.9	10.0	1.0	26.1
トルコ	7.3	6.7	6.5	-	▲ 3.0
サジアラビア	6.8	6.9	6.9	-	0.0
ウクライナ	6.5	5.3	5.7	-	7.5
米国	4.6	4.4	5.2	0.7	18.4
<b>貿易量</b>	<b>15.2</b>	<b>15.5</b>	<b>20.0</b>	<b>0.9</b>	<b>29.0</b>
(輸出)					
EU-27	3.5	3.9	4.5	1.0	16.7
ウクライナ	5.1	1.0	5.5	-	426.8
オーストラリア	1.9	3.5	3.5	-	0.0
カナダ	1.2	3.0	1.6	-	▲ 47.5
ロシア	1.5	1.0	2.5	-	139.0
カザフスタン	0.6	0.8	0.6	-	▲ 24.2
アルゼンチン	0.5	0.8	1.2	-	43.8
(輸入)					
サジアラビア	6.7	7.0	7.3	-	4.3
日本	1.4	1.4	1.4	-	3.7
中国	1.1	1.2	1.3	-	8.3
イラン	0.4	0.7	1.5	-	114.3
モロッコ	0.4	0.7	1.0	-	42.9
シリア	0.3	0.2	1.1	0.3	633.3
チュニジア	0.7	0.5	0.7	-	40.0
<b>期末在庫量</b>	<b>20.7</b>	<b>17.7</b>	<b>26.0</b>	<b>0.6</b>	<b>47.5</b>
EU-27	5.6	5.2	9.8	0.7	88.3
米国	1.5	1.5	1.5	▲ 0.2	▲ 0.7
オーストラリア	1.3	0.6	0.7	-	17.9
サジアラビア	2.4	2.5	2.9	-	15.6
ロシア	1.2	1.0	3.4	0.7	251.0
カナダ	1.5	1.6	1.3	▲ 0.7	▲ 19.1
ウクライナ	1.0	0.7	2.0	▲ 0.0	199.2
<b>期末在庫率</b>	<b>14.3%</b>	<b>13.0%</b>	<b>18.0%</b>	<b>0.1</b>	<b>5.0</b>

資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」、  
「PS&D」

## (2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア オーストラリア

#### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、単収が増大した結果、生産量は前年度より1.6百万トン増加(26.7%)し、7.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の増加の影響を受け、0.7百万トン増加(23.8%)し、3.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度の同程度の3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.1百万トン増加(17.9%)し、0.7百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は8.9%(0.5ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

8月末までは降水量が少なく乾燥した天候が続いていたが、9月の降水量はウェスタンオーストラリア州やニューサウスウェールズ州北部などで平年を上回った。しかし、ウェスタンオーストラリア州では、霜の到来により、雨による土壌水分改善の効果は小さくなってしまった。また、ニューサウスウェールズ州南部やビクトリア州北部は乾燥が続いている。特に、ニューサウスウェールズ州は乾燥による影響が大きくなっている。引き続き天候に注視が必要である。

### イ カナダ

#### 【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積が小麦と大豆の作付拡大の影響を受けて減少するものの、単収が前年度より上昇することから、前年度より0.2百万トン増加(1.8%)し、11.2百万トンとなる見込まれている。

消費量は、飼料用大麦の消費量が2.0百万トン増加(29.9%)することを受け、消費量全体は前年度より2.1百万トン増加(26.1%)し、10.0百万トンとなる見込みである。

飼料用大麦の輸出が大幅に減少することにより、輸出量は前年度より1.4百万トン減少(▲47.5%)し、1.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.3百万トン減少(▲19.1%)し、1.3百万トンとなり、期末在庫率は11.0%(3.4ポイント減)と見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂として、生産量が0.3百万トン上方修正されている。また、消費量が飼料用需要を中心に1.0百万トン上方修正され、期末在庫量は0.7百万トン下方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

大麦の収穫は終了した。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2007年数量ベース41.0%)  
世界の生産量シェア 5位 (2008/09年度 4.9%)  
輸出量シェア 2位 (2008/09年度17.5%)

表-2 オーストラリアの大麦需給 (市場年度: 11月~翌年10月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.3	5.9	7.5 (7.8)	-	26.7
消費量	3.8	3.2	3.9 (2.5)	-	23.8
うち飼料用	2.9	2.2	2.9 (2.1)	-	31.8
輸出量	1.9	3.5	3.5 (5.1)	-	0.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	1.3	0.6	0.7 (…)	-	17.9
期末在庫率	22.8%	8.4%	8.9% (…)	-	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.18	4.41	4.50 (4.51)	-	2.0
単収(t/ha)	1.02	1.34	1.67 (1.74)	-	24.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (September 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース14.5%)  
世界の生産量シェア 4位 (2008/09年度 7.3%)  
輸出量シェア 5位 (2008/09年度 8.0%)

表-3 カナダの大麦需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.6	11.0	11.2 (10.9)	0.3	1.8
消費量	10.2	7.9	10.0 (9.1)	1.0	26.1
うち飼料用	8.9	6.6	8.6 (8.6)	1.0	29.9
輸出量	1.2	3.0	1.6 (2.3)	-	▲47.5
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.0)	-	81.8
期末在庫量	1.5	1.6	1.3 (1.1)	▲0.7	▲19.1
期末在庫率	13.1%	14.3%	11.0% (9.7%)	▲7.6	▲3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.22	4.00	3.45 (3.4)	0.05	▲13.8
単収(t/ha)	2.97	2.75	3.25 (3.2)	0.04	18.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
AAFC 「Grains and Oilseeds Outlook (September 17, 2008)」

## ウ 米国

### 【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.6百万トン増加（13.1%）増加し、5.2百万トンとなる見込みである。

消費量は前年度より0.8百万トン増加（18.4%）し、5.2百万トンとなる見込みである。飼料用の消費は1.0百万トン増加（133.2%）している。

輸出量は、前年度より0.4百万トン減少（▲39.7%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量はほぼ前年並み（0.7%減）のし1.5百万トンとなり、期末在庫率は前年度より2.4ポイント低下し、25.6%となる見込みである。

前月の予測からの改訂は、収穫面積、単収の上方修正により生産量が0.5百万トン上方修正された。消費量は飼料用需要を中心に0.7百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量は0.2百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

米国の大麦の収穫は終了した。

また、作柄については、優良が8%と前年度最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース36.2%）  
世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 3.4%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.9	4.6	5.2	0.5	13.1
消費量	4.6	4.4	5.2	0.7	18.4
うち飼料用	1.1	0.7	1.7	0.7	133.2
輸 出 量	0.4	0.9	0.5	-	▲ 39.7
輸 入 量	0.3	0.7	0.5	-	▲ 20.9
期末在庫量	1.5	1.5	1.5	▲ 0.2	▲ 0.7
期末在庫率	29.8%	27.9%	25.6%	▲ 6.9	▲ 2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.19	1.42	1.52	0.05	7.0
単収(t/ha)	3.29	3.25	3.42	0.20	5.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

## ○ 米国大麦の作柄

〔作柄（主要5州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2008/09	8	44	34	10	4
	前年度同時期	9	53	21	9	8
	前年度最終	9	53	21	9	8

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

作柄は8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

## エ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、収穫面積の増大および単収の増加を受け、前年度より6.6百万トン増加（11.5%）し、64.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の消費増大により、前年度より0.8百万トン増加（1.5%）し、55.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.6百万トン増加（16.7%）し、4.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より4.6百万トン増加（88.3%）し9.8百万トンとなり、期末在庫率は16.3%（7.5ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積、単収の上方修正を受け、生産量が1.6百万トン上方修正されている。また、輸出量が1.0百万トン上方修正され、期末在庫量が0.7百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

EUにおける大麦の収穫は終了した。生育期に良好な天候に恵まれたフランスでは高品質の大麦が、多く収穫されている。また、チェコ、スロバキア、オーストリアで高品質のモルト用大麦が収穫されている。一方、デンマークでは、乾燥によって単収が大幅に低くなっている。

### 【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入することを決定した。

## オ ウクライナ

### 【需給状況】

ウクライナの実産量は、収穫面積は横ばいであるものの良好な天候により単収が干ばつ被害のあった前年度から大幅に改善することを受け、前年度より6.5百万トン増加（108.3%）し、12.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.4百万トン増加（7.5%）し、5.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より3.5百万トン増加（331.0%）し、4.5百万トンとなる見込みである。前年度の落ち込みから、2年度前の水準にまで改善している。

輸出量の大幅な増加があるものの、生産量も大幅に増加しているため、期末在庫量は前年度より1.3百万トン増加（199.2%）し2.0百万トンとなり、期末在庫率は前年度より9.0ポイント増加し、19.5%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、ロシア、EUとの競合により輸出量が1.0百万トン下方修正された。また、2007/08年度の期末在庫量がわずかに修正されたことを受け、2008/09年度の期末在庫量がわずかに下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナにおける大麦の収穫は終了した。

### 【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の生産量シェア1位（2008/09年度42.0%）  
輸出量シェア2位（2008/09年度22.5%））

表－5 EU-27の大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	56.2	57.8	64.4 (64.1)	1.6	11.5
消費量	55.9	54.7	55.5 (58.8)	-	1.5
うち飼料用	40.0	38.2	39.0 (42.8)	-	2.1
輸出量	3.5	3.9	4.5 (4.1)	1.0	16.7
輸入量	0.2	0.3	0.2 (0.3)	0.1	▲ 41.0
期末在庫量	5.6	5.2	9.8 (7.3)	0.7	88.3
期末在庫率	9.5%	8.9%	16.3% (11.5%)	0.9	7.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.8	13.8	14.6 (…)	0.10	5.3
単収(t/ha)	4.06	4.18	4.42 (…)	0.08	5.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」より農林水産省試算

（世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 8.1%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度27.6%））

表－6 ウクライナの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.4	6.0	12.5 (12.3)	-	108.3
消費量	6.5	5.3	5.7 (…)	-	7.5
うち飼料用	4.8	3.6	4.0 (…)	-	11.1
輸出量	5.1	1.0	4.5 (5.5)	▲ 1.0	331.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	▲ 49.0
期末在庫量	1.0	0.7	2.0 (…)	▲ 0.0	199.2
期末在庫率	8.3%	10.5%	19.5% (…)	1.7	9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	4.10	4.10 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.18	1.46	3.05 (…)	-	108.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

## カ ロシア

### 【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より6.3百万トン増加（40.6%）し、22.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の消費量が増えたことなどから、全体で前年度より2.2百万トン増加（15.0%）し、17.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より1.5百万トン増加（139.0%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、2.4百万トン増加（251.0%）し3.4百万トンとなり、期末在庫率は16.9%（11.0ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂としては、収穫面積および単収の上方修正を受け、生産量が1.0百万トン上方修正された。また、消費量は0.5百万トン上方修正されている。期末在庫量は0.7百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ロシアにおける大麦の収穫は終了した。

### 【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

〔世界の生産量シェア 2位（2007/08年度14.0%）〕  
〔輸出量シェア 4位（2008/09年度13.1%）〕

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	18.1	15.7	22.0 (20.5)	1.0	40.6	
消 費 量	16.4	15.1	17.3 (…)	0.5	15.0	
うち飼料用	11.8	10.5	12.2 (…)	0.2	16.7	
輸 出 量	1.5	1.0	2.5 (2.2)	-	139.0	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	13.6	
期末在庫量	1.2	1.0	3.4 (…)	0.7	251.0	
期末在庫率	6.8%	5.9%	16.9% (…)	3.3	11.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.00	9.80	9.70 (…)	0.10	▲ 1.0	
単収(t/ha)	1.81	1.60	2.27 (…)	0.08	41.9	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

## 5 ソルガム

### (1) 国際的なソルガム需給の概要

#### ○2008/09年度のソルガム需給（予測）のポイント

ソルガムの供給面では、世界の生産量はほぼ前年度並みが見込まれている。

需要面では、EU等で昨年度に急増した飼料用需要が小麦の生産回復により減少することが見込まれるため、世界の消費量は減少が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから増加し、期末在庫率も上昇すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、アルゼンチン等で増加するものの、インドや世界の主要な生産・輸出国である米国等の減少から、世界全体ではほぼ前年度並みの、63.3百万トン（0.1%）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正されており、国別には米国が上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、米国等で増加するものの、EU等で昨年度に飼料用小麦の代替として急増した需要が小麦等の生産回復により減少することが見込まれるため、世界全体では前年度より1.0百万トン減少（▲1.6%）し、62.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.8百万トン上方修正されており、国別には米国とメキシコが上方修正、EUが下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より4.2百万トン減少（▲46.0%）し、5.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の7割を占める米国で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、EUで飼料用需要の減少から輸入量の減少が、メキシコ等で増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに下方修正されており、国別にはアルゼンチンの輸出量、EUの輸入量が下方修正、米国の輸出量、メキシコの輸入量が上方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より1.0百万トン増加（24.0%）し、5.2百万トンとなり、期末在庫率は8.3%（1.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはアルゼンチン等が上方修正された。

表-1 世界のソルガム需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>57.0</b>	<b>63.2</b>	<b>63.3</b>	<b>1.2</b>	<b>0.1</b>
米国	7.1	12.8	12.0	1.2	▲ 6.5
ナイジェリア	10.5	10.0	10.5	-	5.0
インド	7.2	7.8	6.5	-	▲ 16.5
メキシコ	5.8	6.1	6.2	-	1.6
スーダン	5.2	4.5	4.7	-	4.4
アルゼンチン	3.3	2.9	4.3	-	48.3
エチオピア	3.3	3.2	3.3	-	2.2
<b>消費量</b>	<b>57.2</b>	<b>63.3</b>	<b>62.3</b>	<b>0.8</b>	<b>▲ 1.6</b>
うち飼料用	21.9	29.0	27.1	0.7	▲ 6.4
ナイジェリア	10.5	10.0	10.5	-	5.0
メキシコ	8.1	7.1	7.8	0.4	9.9
インド	7.1	7.8	6.5	-	▲ 15.9
米国	4.0	5.2	8.0	0.9	52.7
スーダン	5.0	5.2	5.0	-	▲ 4.3
エチオピア	3.1	3.2	3.3	-	2.9
EU-27	1.1	6.2	1.3	▲ 0.5	▲ 79.5
<b>貿易量</b>	<b>5.5</b>	<b>9.2</b>	<b>5.0</b>	<b>▲ 0.0</b>	<b>▲ 46.0</b>
(輸出)					
米国	3.9	7.1	3.6	0.3	▲ 49.6
アルゼンチン	1.1	1.1	0.6	▲ 0.3	▲ 45.5
オーストラリア	0.0	0.3	0.2	-	▲ 33.3
ブラジル	0.2	0.2	0.3	-	33.3
中国	0.1	0.3	0.2	-	▲ 40.0
ナイジェリア	0.1	0.1	0.1	-	0.0
インド	0.0	0.0	0.0	-	▲ 16.7
(輸入)					
EU-27	0.7	5.8	0.5	▲ 0.5	▲ 91.4
メキシコ	2.0	1.1	1.7	0.4	54.5
日本	1.3	1.2	1.4	-	17.4
スーダン	0.3	0.3	0.3	-	0.0
チリ	0.1	0.1	0.2	-	18.1
イスラエル	0.1	0.2	0.1	-	▲ 33.3
ニジェール	0.1	0.1	0.1	-	0.0
<b>期末在庫量</b>	<b>4.3</b>	<b>4.2</b>	<b>5.2</b>	<b>0.5</b>	<b>24.0</b>
米国	0.8	1.3	1.8	0.1	32.7
スーダン	1.0	0.5	0.5	-	▲ 0.9
エチオピア	0.4	0.4	0.4	-	▲ 5.9
アルゼンチン	0.3	0.1	0.9	0.3	551.7
メキシコ	0.2	0.3	0.4	-	31.5
ナイジェリア	0.2	0.2	0.2	-	0.0
インド	0.2	0.2	0.2	-	▲ 23.7
<b>期末在庫率</b>	<b>7.5%</b>	<b>6.6%</b>	<b>8.3%</b>	<b>0.6</b>	<b>1.7</b>

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」

## (2) ソルガムの主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、収穫面積は増加するものの、単収の減少から前年度より0.8百万トン減少（▲6.5%）し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用とうもろこしの価格高騰に伴い、ソルガムの飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より2.8百万トン増加（52.7%）し、8.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少とEUの輸入量の減少から前年度より3.5百万トン減少（▲49.6%）し、3.6百万トンとなる見込みである。

この結果、生産が消費と輸出を上回ることから期末在庫量は前年度より0.5百万トン増加（32.7%）し、1.8百万トンとなり、期末在庫率は15.4%（4.5ポイント増）まで上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収が下方修正されたものの収穫面積が上方修正されたことから生産量が1.2百万トン、消費量が0.9百万トン、輸出量が0.3百万トンそれぞれ上方修正されたことから、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

米国のソルガムの主要11州の生育進捗状況については、この春は気温が低く推移したことから初期生育が遅れたことが影響し、成熟率は83%で、過去5年の平均に比べ7ポイント（前年に比べ14ポイント）の遅れとなっている。収穫率は49%で、過去5年の平均に比べ16ポイント（前年に比べ26ポイント）の遅れとなっている。

作柄については、優良が9%と前年度の最終の15%に比べ低く、優良～普通までの合計でも87%と前年度の最終の91%を下回っている。

なお、主産地のテキサス州等では収穫前のソルガムが9月中旬に襲来したハリケーン「アイク」の直撃を受けたが、大きな被害はなかった。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース 57.1%）  
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度 18.9%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度 71.8%）

表－2 米国のソルガム需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.1	12.8	12.0	1.2	▲ 6.5
消費量	4.0	5.2	8.0	0.9	52.7
うち飼料用	2.9	4.4	6.2	0.9	43.0
輸出量	3.9	7.1	3.6	0.3	▲ 49.6
輸入量	0.0	0.0	0.0	-	▲ 100.0
期末在庫量	0.8	1.3	1.8	0.1	32.7
期末在庫率	10.3%	10.9%	15.4%	▲ 1.1	4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.00	2.75	2.99	0.38	8.9
単収(t/ha)	3.53	4.66	4.01	▲ 0.14	▲ 13.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」

#### ○ 米国ソルガムの生育進捗状況及び作柄（10月26日現在）

##### 〔生育進捗状況〕

成熟率 83%（平年差：▲7 p、前年差：▲14 p）

収穫率 49%（平年差：▲16 p、前年差：▲26 p）

##### 〔作柄〕

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
ソルガム	2008/09	9	47	31	10	3
	前年度同時期	...	...	...	...	...
	前年度最終	15	49	27	7	2

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、10月19日現在のデータに前年度同時期の情報は含まれていない。

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

## イ アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、収穫面積及び単収の増加から前年度より1.4百万トン増加（48.3%）し、4.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加から前年度より0.9百万トン増加（45.0%）し、2.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン減少（▲45.5%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量と輸出量を上回ることから前年度より0.8百万トン増加（551.7%）し、0.9百万トンとなり、期末在庫率も27.0%（22.3ポイント増）と大幅に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸出量が0.3百万トン下方修正されたことから期末在庫量が0.3百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンの2008/09年度のソルガムの作付けは、主要産地のサンタフェ州を中心に10月頃から始まっている。10月23日現在の作付進捗率は10%で、平年に比べ遅れている。

なお、2007/08年度の収穫はすべての産地で終了している。

## ウ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積は減少するものの、良好な天候を反映して単収が増加することから前年度より0.1百万トン増加（5.3%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（5.9%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン減少（▲40.0%）し、0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より5.5万トン増加（100.0%）し、11万トンとなり、期末在庫率も5.6%（2.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

### 【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を課している。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース 31.2%）〕  
世界の輸出量シェア 2位（2008/09年度 12.1%）

表－3 アルゼンチンのソルガム需給  
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	3.3	2.9	4.3 (4.3)	-	48.3	
消費量	2.0	2.0	2.9 (3.3)	-	45.0	
うち飼料用	1.8	1.8	2.7 (3.0)	-	50.0	
輸出量	1.1	1.1	0.6 (0.8)	▲ 0.3	▲ 45.5	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...	
期末在庫量	0.3	0.1	0.9 (0.4)	0.3	551.7	
期末在庫率	11.2%	4.7%	27.0% (8.5%)	10.0	22.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	0.62	0.61	0.83 (...)	-	35.2	
単収(t/ha)	5.32	4.75	5.21 (...)	-	9.7	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

〔我が国の輸入先国シェア3位（2007年数量ベース 11.6%）〕  
世界の輸出量シェア5位（2008/09年度 3.0%）

表－4 中国のソルガム需給  
（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	2.0	1.9	2.0 (2.0)	-	5.3	
消費量	2.0	1.7	1.8 (...)	-	5.9	
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (...)	-	0.0	
輸出量	0.1	0.3	0.2 (0.1)	-	▲ 40.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...	
期末在庫量	0.1	0.1	0.1 (...)	-	100.0	
期末在庫率	4.5%	2.8%	5.6% (...)	-	2.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	0.57	0.55	0.50 (...)	-	▲ 9.1	
単収(t/ha)	3.53	3.45	4.00 (...)	-	15.9	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

## エ オーストラリア

### 【需給状況】

オーストラリアの生産量は、夏の降雨に恵まれ豊作だった前年度に比べ単収の減少が見込まれることから前年度より0.7百万トン減少（▲25.7%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.6百万トン減少（▲24.6%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少から前年度より0.1百万トン減少（▲33.3%）し、0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.5万トン減少（▲12.2%）し、3.6万トンとなり、期末在庫率も1.8%（0.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのソルガムの作付けは、9月頃から始まっている。

## オ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、収穫面積及び単収の減少が見込まれることから、前年度より1.3百万トン減少（▲16.5%）し、6.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、生産量の減少に伴い、前年度より1.3百万トン減少（▲15.9%）し、6.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.2百万トンとなり、期末在庫率も2.7%（0.3ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

インドの2008/09年度のカリフ（秋冬）期のソルガムの9月27日現在の作付け進捗状況は、主にマハラシュトラ及びカルナタカの主要栽培地域で天候に恵まれなかったために、インド農務省によると前年同期より48万ha少ない（▲14.2%）、291万haとなっている。

（世界の輸出量シェア 4位（2008/09年度 4.0%））

表－5 オーストラリアのソルガム需給  
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値 (ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	1.3	2.7	2.0 (2.0)	-	▲ 25.7	
消費量	1.2	2.4	1.8 (1.5)	-	▲ 24.6	
うち飼料用	1.2	2.4	1.8 (1.5)	-	▲ 24.6	
輸出量	0.0	0.3	0.2 (0.4)	-	▲ 33.3	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…	
期末在庫量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	▲ 12.2	
期末在庫率	3.4%	1.5%	1.8% (…)	-	0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	0.61	0.80	0.80 (0.77)	-	0.0	
単収(t/ha)	2.09	3.36	2.50 (2.59)	-	▲ 25.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (16 September 2008)」

（世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 10.3%））

表－6 インドのソルガム需給（市場年度：11月～翌年10月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	7.2	7.8	6.5 (6.5)	-	▲ 16.5	
消費量	7.1	7.8	6.5 (…)	-	▲ 15.9	
うち飼料用	1.2	1.5	1.2 (…)	-	▲ 20.0	
輸出量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	▲ 16.7	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…	
期末在庫量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	▲ 23.7	
期末在庫率	3.5%	3.0%	2.7% (…)	-	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.51	8.40	7.50 (…)	-	▲ 10.7	
単収(t/ha)	0.84	0.93	0.87 (…)	-	▲ 6.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

## 6 米

### (1) 国際的な米需給の概要

#### ○2008/09年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、バングラデシュ、インドネシア、中国等で増産される見込みであり、世界の生産量も増加が見込まれている。

需要面では、インド、インドネシア、中国等で消費量が拡大し、世界の消費量も増加が見込まれている。

期末在庫量については、昨年引き続き生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、バングラデシュ、インドネシア、中国等で増加し、世界全体では前年度より3.0百万トン増加（0.7%）し、433.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正され、国別にはバングラデシュ等で上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、インド、フィリピン、インドネシア等で増加し、世界全体では前年度より2.9百万トン増加（0.7%）し、430.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.5百万トン上方修正され、国別はバングラデシュ、ミャンマー等で上方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.1百万トン減少（▲6.7%）し、28.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではインド、タイ等で輸出量の減少が、ベトナム、エジプト等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、フィリピン、EU、サウジアラビア等で輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、中国、インド等で積み増しされ、世界全体では前年度より2.8百万トン増加（3.7%）し、80.5百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も18.7%まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正された。

表-1 世界の米需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>420.4</b>	<b>430.2</b>	<b>433.2</b>	<b>1.2</b>	<b>0.7</b>
中国	127.2	129.8	130.6	-	0.5
インド	93.4	96.4	97.0	-	0.6
インドネシア	35.3	35.5	36.3	-	2.1
バングラデシュ	29.0	28.8	29.6	0.2	2.8
ベトナム	22.9	24.1	23.7	-	▲1.8
タイ	18.3	19.3	19.5	-	1.0
フィリピン	9.8	10.1	10.2	-	1.2
<b>消費量</b>	<b>421.1</b>	<b>427.5</b>	<b>430.4</b>	<b>1.5</b>	<b>0.7</b>
中国	127.2	127.3	127.7	-	0.2
インド	86.9	90.8	93.5	-	3.0
インドネシア	35.9	36.4	36.9	-	1.4
バングラデシュ	29.8	30.4	30.9	0.3	1.6
ベトナム	18.8	19.0	19.2	-	1.2
フィリピン	12.0	12.6	13.2	-	4.8
ミャンマー	10.7	10.3	10.0	0.3	▲2.9
<b>貿易量</b>	<b>31.3</b>	<b>30.4</b>	<b>28.3</b>	<b>0.1</b>	<b>▲6.7</b>
(輸出)					
タイ	9.6	10.0	9.5	-	▲5.0
ベトナム	4.5	4.8	5.2	-	9.5
パキスタン	2.8	3.0	3.2	-	5.0
米国	2.9	3.5	3.5	▲0.1	0.0
インド	5.5	4.1	2.0	-	▲51.2
中国	1.3	1.0	1.1	-	10.0
エジプト	1.2	0.5	0.8	-	77.8
(輸入)					
フィリピン	1.8	2.0	2.5	-	25.0
ナイジェリア	1.6	1.6	1.6	-	0.0
EU-27	1.2	1.1	1.2	-	9.1
サウジアラビア	1.4	1.0	1.0	-	5.9
イラン	0.9	0.9	0.9	-	0.0
イラク	0.6	0.9	0.9	-	0.0
マレーシア	0.9	0.8	0.9	-	10.0
<b>期末在庫量</b>	<b>75.0</b>	<b>77.7</b>	<b>80.5</b>	<b>0.2</b>	<b>3.7</b>
中国	35.9	37.7	39.8	-	5.6
インド	11.4	13.0	14.5	-	11.5
フィリピン	4.9	4.3	3.8	-	▲11.5
インドネシア	4.6	4.3	4.5	-	4.7
日本	2.4	2.7	3.0	-	10.1
タイ	2.5	2.2	2.7	-	22.9
ベトナム	1.4	2.2	1.7	-	▲20.3
<b>期末在庫率</b>	<b>17.8%</b>	<b>18.2%</b>	<b>18.7%</b>	<b>▲0.0</b>	<b>0.5</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「PS&D」

## (2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 中国

#### 【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.8百万トン増加（0.5%）し、130.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.4百万トン増加（0.2%）し、127.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の拡大などから、0.1百万トン増加（10.0%）し、1.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.1百万トン増加（5.6%）し、39.8百万トンとなり期末在庫率も30.9%（1.6ポイント増）に増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

中国の米の生育進捗状況については、揚子江下流南部地域で9月末に気温が急激に下がり、2期作目のコメの出穂、開花および乳熟に影響が出ている。

#### 【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を賦課している。

### イ インド

#### 【需給状況】

インド生産量は、前年度より0.6百万トン増加（0.6%）し、97.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より2.7百万トン増加（3.0%）し、93.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、2.1百万トン減少（▲51.2%）し、2.0万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.5百万トン増加（11.5%）し、14.5百万トンとなり期末在庫率も15.2%（1.5ポイント増）に増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

洪水による米の生産高への影響がビハール、オリッサ、アッサム、パンジャブ、ハリヤナ等の州で出る可能性があるものの、インド農務省のカリフ（冬期）米の予想生産高は2008/09年度（8325万トン）が2007/08年度（8221万トン）を上回る見込みである。

#### 【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出が禁止されており、現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の非バスマティ米に限り輸出禁止が解除された。また、バスマティ米は輸出税を課しているが、輸出価格の設定は9月に解除された。

（世界の生産量シェア 1位（2008/09年度30.1%）  
輸出量シェア 6位（2008/09年度 3.9%）

表-2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	127.2	129.8	130.6 (129.3)	-	0.5
消費量	127.2	127.3	127.7 (126.8)	-	0.2
輸出量	1.3	1.0	1.1 (1.5)	-	10.0
輸入量	0.5	0.3	0.3 (1.0)	-	10.0
期末在庫量	35.9	37.7	39.8 (56.6)	-	5.6
期末在庫率	27.9%	29.4%	30.9% (44.1%)	-	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.30	29.60	29.75 (...)	-	0.5
単収(t/ha)	6.20	6.27	6.27 (...)	-	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

（世界の生産量シェア 2位（2008/09年度22.4%）  
輸出量シェア 5位（2008/09年度 7.1%）

表-3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	93.4	96.4	97.0 (96.0)	-	0.6
消費量	86.9	90.8	93.5 (90.6)	-	3.0
輸出量	5.5	4.1	2.0 (2.3)	-	▲ 51.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	...
期末在庫量	11.4	13.0	14.5 (16.0)	-	11.5
期末在庫率	12.4%	13.7%	15.2% (17.2%)	-	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.00	44.00	45.00 (...)	-	2.3
単収(t/ha)	3.18	3.29	3.23 (...)	-	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

## ウ インドネシア

### 【需給状況】

インドネシアの生産量は、良好な天候による単収の増加が見込まれており、前年度より0.8百万トン増加（2.1%）し、36.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（1.4%）し、36.9百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.3百万トン増加（60.0%）し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加（4.7%）し、4.5百万トンとなり、期末在庫率も12.1%（0.4ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、4月11日から輸出を禁止している。

## エ タイ

### 【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.2百万トン増加（1.0%）し、19.5百万トンとなる見込みである。

なお、タイの農業経済局によると、2008年の気象状況は良好であり、2008年の農業GDPの成長率は4.1%になるとの見解である。

消費量は、前年度より0.1百万トン減少（▲1.0%）し9.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、アジア、アフリカ等からの強い需要が見込まれている前年度から0.5百万トン減少（▲5.0%）し、9.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（22.9%）し、2.7百万トンとなり期末在庫率も14.4%（3.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

タイの米の生育進捗状況については、4月以降の降水量は十分であることなどから、米の生産量の9割弱を占める雨季作米（秋に収穫）の作付けが順調に行われており、タイの農業経済局では作付面積及び単収が前年を上回り収穫量が増加すると推測している。

〔世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 8.4%）〕

表-4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	35.3	35.5	36.3 (36.7)	-	2.1
消費量	35.9	36.4	36.9 (36.9)	-	1.4
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
輸入量	2.0	0.5	0.8 (0.5)	-	60.0
期末在庫量	4.6	4.3	4.5 (2.7)	-	4.7
期末在庫率	12.8%	11.7%	12.1% (7.3%)	-	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.90	11.90	11.90 (...)	-	0.0
単収(t/ha)	4.60	4.63	4.72 (...)	-	1.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

〔世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 4.5%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度33.5%）〕

表-5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.3	19.3	19.5 (21.3)	-	1.0
消費量	9.8	9.6	9.5 (11.5)	-	▲1.0
輸出量	9.6	10.0	9.5 (10.2)	-	▲5.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	2.5	2.2	2.7 (3.3)	-	22.9
期末在庫率	13.0%	11.3%	14.4% (15.2%)	-	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.27	10.60	10.70 (11.3)	-	0.9
単収(t/ha)	2.69	2.76	2.76 (2.88)	-	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

## オ ベトナム

### 【需給状況】

ベトナムの生産量は、単収が過去最高を記録した昨年度より低下すると見込まれることから前年度より0.4百万トン減少（▲1.8%）し、23.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より0.2百万トン増加（1.2%）し、19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、高い生産が維持されることから前年より0.4百万トン増加（9.5%）し、5.2百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は0.1百万トン減少（▲25.0%）し、0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.5百万トン減少（▲20.4%）し、1.7百万トンとなり、期末在庫率も7.0%（2.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【貿易情報】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、6月13日からこれを解除した。ただし、輸出枠（2008年の9月末まで350万トンを上限）が設定されている。また、8月15日から新たに輸出税が賦課されている。

## カ フィリピン

### 【需給状況】

フィリピンの生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.1百万トン増加（1.2%）し、10.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より0.6百万トン増加（4.8%）し、13.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.5百万トン増加（25.0%）し、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲11.5%）し、3.8百万トンとなり、期末在庫率も29.2%（5.4ポイント減）と減少する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

（世界の生産量シェア 5位（2008/09年度 5.5%）  
輸出量シェア 2位（2008/09年度 18.4%））

表-6 ベトナムの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.9	24.1	23.7 (24.4)	-	▲ 1.8
消費量	18.8	19.0	19.2 (20.4)	-	1.2
輸出量	4.5	4.8	5.2 (4.1)	-	9.5
輸入量	0.5	0.4	0.3 (0.2)	-	▲ 25.0
期末在庫量	1.4	2.2	1.7 (4.4)	-	▲ 20.4
期末在庫率	6.0%	9.1%	7.0% (18.0%)	-	▲ 2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.36	7.36 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	4.82	4.97	4.88 (…)	-	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

（世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 2.4%）  
輸入量シェア 1位（2008/09年度 8.8%））

表-7 フィリピンの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.8	10.1	10.2 (11.5)	-	1.2
消費量	12.0	12.6	13.2 (12.7)	-	4.8
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
輸入量	1.8	2.0	2.5 (2.1)	-	25.0
期末在庫量	4.9	4.3	3.8 (1.8)	-	▲ 11.5
期末在庫率	40.6%	34.5%	29.2% (14.2%)	-	▲ 5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.19	4.25	4.30 (…)	-	1.2
単収(t/ha)	3.70	3.76	3.77 (…)	-	0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (June 2008)」

## II 油糧種子

### 1 2008/09年度の国際的な油糧種子需給の概要

#### ○2008/09年度の油糧種子需給（予測）のポイント

2008/09年度の油糧種子需給は、中国での食用油需要やEU等でのバイオディーゼル用需要が拡大する中、米国の大豆の作付拡大やEU等のなたねの増産などで、油糧種子全体としては、消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

また、期末在庫量が積み上げられることから、油糧種子全体の需給は若干緩和するものと見込まれる。

#### 【生産量】

世界の油糧種子全体の生産量は、大豆、なたね、ひまわり種等の増加から前年度より28.0百万トン増加（7.1%）し、419.1百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、米国において大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などで作付けが拡大したことなどから生産量が増加し、なたねについては、EU等で小麦の作付面積の拡大との競合もあるものの、これまでの天候も比較的好ましい状況で推移したことなどから生産量が増加すると見込まれている。

#### 【消費量】

世界の油糧種子全体の消費量は、堅調な搾油需要の拡大などから、前年度より13.6百万トン増加（3.4%）し、412.9百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、中国、アルゼンチン等で搾油用需要の拡大などから消費量が増加し、なたねについては、バイオディーゼル用需要の拡大を背景としたEU、カナダ等の搾油用需要の拡大などから消費量が増加すると見込まれている。

#### 【貿易量】

世界の油糧種子の貿易量は、0.8百万トン増加（0.8%）し、93.4百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、貿易量の4割強を輸入する中国で豊作から輸入量が減少に転じ、EUも輸入が減少することなどから、貿易量の減少が見込まれている。一方、なたねについては、バイオディーゼル需要の拡大などを背景に輸入量の増加が見込まれている。

#### 【期末在庫量】

世界の油糧種子全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから3.3百万トン増加（5.4%）し、64.6百万トンとなる見込みである。また、油糧種子全体の期末在庫率は、期末在庫量が積み増しされ15.6%と0.3ポイント上昇する見込みである。

品目別には、大豆、なたねともに期末在庫量は前年から積み増しされる。大豆の期末在庫率は2割を上回っており、世界全体としては極度の需給の引き締めはみられない。なたねの期末在庫率は、1割弱まで回復すると見込まれている。

表－1 世界の油糧種子需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	油糧種子計	403.3	391.2	419.1	1.4	7.1
	うち、大豆	236.6	220.7	238.2	0.2	7.9
	なたね	45.2	48.2	54.1	0.7	12.1
	綿花	45.8	46.1	43.7	0.4	▲ 5.2
	ピーナッツ	30.5	32.2	33.4	0.1	3.5
	ひまわり種	29.8	27.2	32.1	▲ 0.1	17.9
消費量	油糧種子計	392.2	399.3	412.9	▲ 1.2	3.4
	うち、大豆	224.5	229.1	235.2	▲ 1.6	2.6
	なたね	46.5	48.7	51.9	0.0	6.7
	綿花	46.0	45.8	44.2	0.4	▲ 3.4
	ピーナッツ	30.4	32.0	32.7	0.0	2.3
	ひまわり種	29.4	27.2	31.3	▲ 0.2	15.0
うち、搾油用	油糧種子計	328.4	337.4	348.9	▲ 1.3	3.4
	うち、大豆	195.4	201.2	204.9	▲ 1.5	1.9
	なたね	43.8	46.3	49.1	0.0	6.1
	綿花	34.0	34.5	34.3	0.4	▲ 0.7
	ピーナッツ	13.8	14.8	15.3	0.0	3.1
	ひまわり種	26.0	24.3	28.0	▲ 0.4	15.4
貿易量	油糧種子計	83.7	92.6	93.4	0.6	0.8
	うち、大豆	71.5	79.1	78.0	0.4	▲ 1.4
	なたね	6.6	8.4	9.8	0.1	17.4
	綿花	1.0	0.9	0.7	0.0	▲ 26.6
	ピーナッツ	2.5	2.5	2.5	0.0	▲ 1.2
	ひまわり種	1.9	1.4	2.1	0.0	47.9
期末在庫量	油糧種子計	72.5	61.3	64.6	4.2	5.4
	うち、大豆	62.7	52.7	54.8	3.6	4.1
	なたね	4.4	3.4	4.9	0.6	44.7
	綿花	1.1	1.3	0.8	0.0	▲ 40.5
	ピーナッツ	1.1	0.8	1.0	0.0	18.3
	ひまわり種	3.0	2.7	2.7	▲ 0.0	▲ 1.5
期末在庫率	油糧種子計	18.5%	15.3%	15.6%	1.1	0.3
	うち、大豆	27.9%	23.0%	23.3%	1.7	0.3
	なたね	9.5%	6.9%	9.3%	1.2	2.5
	綿花	2.4%	2.9%	1.8%	▲ 0.0	▲ 1.1
	ピーナッツ	3.7%	2.6%	3.0%	0.2	0.4
	ひまわり種	10.4%	10.1%	8.6%	▲ 0.1	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2008/09年度の油糧種子需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量は大豆が米国、カナダ、なたねはカナダ、EUで上方修正され、油糧種子全体で1.4百万トン上方修正されている。一方、消費量はなたねが若干上方修正されたものの、大豆が米国、アルゼンチンで下方修正され、油糧種子全体で1.2百万トン下方修正されている。生産量の上方修正と消費量の下方修正により、期末在庫量は4.2百万トン上方修正され、需給は緩和傾向に修正された。

○ 大豆

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.2	▲ 1.6	▲ 1.5	1.2	…	3.6
米国	0.1	▲ 0.7	▲ 0.7	0.5	▲ 0.1	1.9
ブラジル	-	-	-	▲ 0.5	▲ 0.0	0.8
カナダ	0.1	-	-	0.1	-	0.1
中国	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	-	▲ 0.5	▲ 0.5	0.2	0.0	0.8

○ なたね

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.7	0.0	0.0	0.1	…	0.6
カナダ	0.5	-	-	-	-	0.5
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
EU-27	0.1	0.1	0.1	0.1	-	▲ 0.0
中国	-	-	-	-	-	-
インド	-	-	-	-	-	-

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2007/08年度の需給データの改訂により、2008/09年度の期首在庫量が修正されたに伴う場合もある。

## 2 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要

#### ○2008/09年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、昨年度にとうもろこしへの作付転換により縮小した米国の作付けが、大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などから拡大する見込みであり、世界の生産量も増加が見込まれている。

需要面では、中国、アルゼンチン等で搾油用需要を中心に拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから増加し、期末在庫率も上昇すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、インドで減少するものの、世界第1位の生産国で輸出国である米国の作付け拡大などから、世界全体では前年度より17.5百万トン増加（7.9%）し、238.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正されており、国別には米国、カナダで上方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、EU等で減少するものの、中国、アルゼンチン等で搾油需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より6.1百万トン増加（2.6%）し、235.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン下方修正されており、国別には米国、アルゼンチン、EUが下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より0.3百万トン減少（▲0.4%）し、78.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では米国で輸出量の減少が、ブラジル等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、貿易量の4割強を輸入する中国で生産量の増加やEUで輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正されており、国別には米国、アルゼンチン等の輸出量が上方修正され、ブラジルの輸出量、EUの輸入量が下方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから世界全体では前年度より2.1百万トン増加（4.1%）し、54.8百万トンとなることから期末在庫量が積み増しされ、期末在庫率は23.3%と前年を上回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.6百万トン上方修正されており、国別には米国、ブラジル、アルゼンチン等が上方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生 産 量</b>	<b>236.6</b>	<b>220.7</b>	<b>238.2</b>	<b>0.2</b>	<b>7.9</b>
米国	86.8	72.8	80.0	0.1	9.8
ブラジル	59.0	61.0	62.5	-	2.5
アルゼンチン	48.8	46.5	50.5	-	8.6
中国	15.2	13.5	16.5	-	22.2
インド	7.7	9.3	9.2	-	▲1.1
パラグアイ	6.2	6.8	7.2	-	5.9
カナダ	3.5	2.7	3.2	0.1	20.0
<b>消 費 量</b>	<b>224.5</b>	<b>229.1</b>	<b>235.2</b>	<b>▲1.6</b>	<b>2.6</b>
うち搾油用	195.4	201.2	204.9	▲1.5	1.9
米国	53.2	51.6	52.4	▲0.7	1.6
中国	45.4	48.9	51.6	-	5.6
アルゼンチン	35.1	36.4	38.5	▲0.5	5.8
ブラジル	34.0	35.0	35.5	-	1.5
EU-27	16.1	15.8	14.7	▲0.3	▲6.6
インド	7.7	9.2	9.2	-	▲0.4
日本	4.3	4.3	4.3	-	0.0
<b>貿 易 量</b>	<b>71.5</b>	<b>79.1</b>	<b>78.8</b>	<b>1.2</b>	<b>▲0.4</b>
(輸出)					
米国	30.4	31.6	27.8	0.5	▲12.1
ブラジル	23.5	25.4	27.0	▲0.5	6.4
アルゼンチン	9.6	13.5	14.1	0.2	4.4
パラグアイ	4.5	5.1	5.4	-	6.3
カナダ	1.7	1.8	1.8	0.1	0.8
(輸入)					
中国	28.7	36.5	36.0	-	▲1.4
EU-27	15.3	15.0	14.2	▲0.2	▲5.7
日本	4.1	4.1	4.1	-	0.0
メキシコ	3.8	3.7	3.6	▲0.0	▲0.4
アルゼンチン	2.0	3.0	3.4	0.0	13.6
台湾	2.4	2.3	2.4	0.1	2.2
タイ	1.5	1.6	1.7	-	3.1
<b>期 末 在 庫 量</b>	<b>62.7</b>	<b>52.7</b>	<b>54.8</b>	<b>3.6</b>	<b>4.1</b>
アルゼンチン	22.6	22.1	23.4	0.8	5.5
ブラジル	18.2	19.0	19.2	0.8	0.8
米国	15.6	5.6	5.6	1.9	0.0
中国	2.7	3.4	3.9	-	15.8
EU-27	1.1	1.0	1.0	0.1	2.1
<b>期 末 在 庫 率</b>	<b>27.9%</b>	<b>23.0%</b>	<b>23.3%</b>	<b>1.7</b>	<b>0.3</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」

## (2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 米国

#### 【需給状況】

米国の生産量は、主産地である中西部での生育期における天候不順や洪水による生育の遅れが見られるものの、昨年度に大幅に縮小した作付けが大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などから拡大する見込であり、前年度より7.2百万トン増加(9.8%)し、80.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の消費は減少するものの、他の分野での消費量の増加が見込まれることから前年度より0.8百万トン増加(1.6%)し、52.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量は増加するものの在庫水準が低く、ブラジルの輸出量増加見込みなどから、3.8百万トン減少(▲12.1%)し、27.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度並みの5.6百万トンであり、期末在庫率は7.0%(0.3ポイント増)と引き続き低水準となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収が下方修正されたものの収穫面積の上方修正により生産量が0.1百万トン上方修正され、2007/08年度の期末在庫量が1.8百万トン上方修正されたことによる2008/09年度の期首在庫の上方修正により期末在庫量も1.9百万トン上方修正された。輸出量も0.5百万トン上方修正された。また、搾油用の消費量は0.7百万トン、輸入量は0.1百万トン下方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

米国の大豆の主要18州の生育進捗状況については、76%が収穫期を迎えたが、天候不順による作付けの遅れなどで生育が遅れたことで、収穫率は過去5年の平均に比べ5ポイント(前年に比べ7ポイント)ほど進捗が遅れている。

作柄については、優良が12%と前年度の同時期や最終より下回っているが、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

なお、主要産地の中西部では、収穫期に入ったことで早霜などのリスクが低下したが、収穫作業には晴天が望ましいことから、今後の天候に引き続き注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2007年数量ベース79.9%)  
世界の生産量シェア 1位 (2008/09年度33.6%)  
輸出量シェア 1位 (2008/09年度35.3%)

表-2 米国の大豆需給 (市場年度: 9月～翌年8月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	86.8	72.8	80.0	0.1	9.8
消費量	53.2	51.6	52.4	▲0.7	1.6
うち搾油用	49.2	49.0	47.9	▲0.7	▲2.3
輸出量	30.4	31.6	27.8	0.5	▲12.1
輸入量	0.3	0.3	0.2	▲0.1	▲29.6
期末在庫量	15.6	5.6	5.6	1.9	0.0
期末在庫率	18.7%	6.7%	7.0%	2.4	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.19	25.96	30.11	0.43	16.0
単収(t/ha)	2.87	2.81	2.66	▲0.03	▲5.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」

#### ○ 米国大豆の生育進捗状況及び作柄 (10月26日現在)

##### 〔生育進捗状況〕

収穫率 76% (平年差: ▲5 p、前年差: ▲7 p)

##### 〔作柄〕

		単位: %				
		優良	良	普通	不良	極不良
大豆	2008/09	12	45	29	10	4
	前年度同時期	-	-	-	-	-
	前年度最終	14	43	26	11	6

注: 優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料: USDA「Crop Progress」ただし、大豆の作柄については10月12日報告のデータ

注: 生育進捗状況の( )内は前年同時期及び同時期の平年値(過去5年)との比較である。

## イ ブラジル

### 【需給状況】

ブラジルの生産量は、リアル高や肥料価格高騰などの生産コスト上昇で厳しい経営が続いているが、とうもろこし等から大豆への作付け拡大などから前年度より1.5百万トン増加(2.5%)し、62.5百万トンとなる見込みである。なお、大豆価格は一時期に比べ大幅に低下しており、世界的な金融危機による資金調達難で、大豆売却は低調である。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加(1.5%)し、35.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より1.6百万トン増加(6.4%)し、27.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加(0.8%)し、19.2百万トンとなり期末在庫率も30.6%(0.8ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の期末在庫量が0.4百万トン上方修正されたことによる2008/09年度の期首在庫の上方修正や、輸出量が0.5百万トン下方修正されたことにより、期末在庫量は0.8百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの大豆の作付けは、10月下旬頃から始まる。

なお、2007/08年度は、一部地域でラニーニャ現象による降水量の減少や大豆さび病の発生等があったが、生産には大きな影響を及ぼさなかった。

## ウ カナダ

### 【需給状況】

カナダの生産量は、昨年度に低下した単収が上昇する見込みであることから、前年度より0.5百万トン増加(20.0%)し、3.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度と同水準の1.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量が回復するものの在庫水準が低水準にあることなどから、前年度並みの1.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年より0.1百万トン増加(26.7%)し、0.3百万トンとなり、期末在庫率は7.2%(1.4ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正を受け、生産量が0.1百万トン上方修正された。さらに、輸出量、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は現在、収穫期に入っている。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース 8.8%)  
世界の生産量シェア 2位 (2008/09年度26.1%)  
輸出量シェア 2位 (2008/09年度34.2%)

表-3 ブラジルの大豆需給 (市場年度: 10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	59.0	61.0	62.5 (60.0)	-	2.5	
消費量	34.0	35.0	35.5 (34.0)	-	1.5	
うち搾油用	31.1	32.0	32.5 (31.2)	-	1.6	
輸出量	23.5	25.4	27.0 (26.4)	▲ 0.5	6.4	
輸入量	0.1	0.2	0.2 (0.2)	▲ 0.0	0.0	
期末在庫量	18.2	19.0	19.2 (22.2)	0.8	0.8	
期末在庫率	31.6%	31.5%	30.6% 36.8%	1.6	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	20.70	21.30	22.00 (21.70)	-	3.3	
単収(t/ha)	2.85	2.86	2.84 (2.76)	-	▲ 0.7	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly (October 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース 7.4%)  
世界の生産量シェア 7位 (2008/09年度 1.4%)  
輸出量シェア 5位 (2008/09年度 2.3%)

表-4 カナダの大豆需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	3.5	2.7	3.2 (3.2)	0.1	20.0	
消費量	2.0	1.7	1.7 (1.9)	-	2.5	
うち搾油用	1.5	1.4	1.5 ...	-	6.4	
輸出量	1.7	1.8	1.8 (1.7)	0.1	0.8	
輸入量	0.2	0.3	0.4 (0.4)	-	14.8	
期末在庫量	0.7	0.2	0.3 (0.2)	0.1	26.7	
期末在庫率	18.4%	5.8%	7.2% (4.3%)	1.5	1.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	1.20	1.17	1.21 (1.21)	-	3.4	
単収(t/ha)	2.88	2.31	2.68 (2.62)	0.06	16.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
AAFC 「Pulse and Special Crops Outlook (September 17, 2008)」

## エ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、北東部の作付け面積の増加と昨年度干ばつにより低下した単収の回復が見込まれることから、前年度より3.0百万トン増加(22.2%)し、16.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より2.7百万トン増加(5.6%)し、51.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同水準の0.4百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は生産量の増加に伴い0.5百万トン減少(▲1.4%)し、36.0百万トンとなる見込みであるが、なお世界の貿易量の4割強を占めている。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.5百万トン増加(15.8%)し、3.9百万トンとなり、期末在庫率も生産量の増加により期末在庫量が積み増しされることから、7.5%(0.7ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

中国北東部の主要産地では、8月初旬に適度の降水量に恵まれ、大豆の生育は順調に推移し、現在は収穫期の終わりを迎えている。

### 【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取消し、輸出税を課している。

## オ アルゼンチン

### 【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、価格高騰による作付け拡大やとうもろこしの生産コスト高などによる大豆への作付け転換などから前年度より4.0百万トン増加(8.6%)し、50.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加から前年度より2.4百万トン増加(5.8%)し、38.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、0.6百万トン増加(4.4%)し、14.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より1.3百万トン増加(5.5%)し、23.4百万トンとなるものの、消費量及び輸出量が生産量を上回ることから、期末在庫率は44.4%と前年度並みとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の期末在庫量が0.4百万トン上方修正されたことによる2008/09年度の期首在庫の上方修正、消費量の0.5百万トン下方修正、輸出量の0.2百万トンの上方修正により期末在庫量が0.8百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンの大豆の作付けは、11月頃から始まる。なお、昨年度(2007/08年度)の収穫は終了しており、開花期の天候不順で生産量は2006/07年度を下回った。

### 【貿易情報】

輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等が今年3月から断続的にストライキを実施。その後7月に同制度の関連法案は廃案となった。

なお、10月にも農家がアルゼンチン政府の農業政策に抗議するストライキを6日間行った。

我が国の輸入先国シェア4位(2007年数量ベース 3.3%)  
世界の生産量シェア 4位(2008/09年度 6.9%)  
輸入量シェア 1位(2008/09年度45.7%)

表-5 中国の大豆需給(市場年度:10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	13.5	16.5 (17.0)	-	22.2
消費量	45.4	48.9	51.6 ...	-	5.6
うち搾油用	35.5	38.8	41.2 ...	-	6.4
輸出量	0.5	0.5	0.4 ...	-	▲11.1
輸入量	28.7	36.5	36.0 (33.5)	-	▲1.4
期末在庫量	2.7	3.4	3.9 ...	-	15.8
期末在庫率	5.8%	6.8%	7.5% ...	0.0	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.10	8.70	9.40 (9.60)	-	8.0
単収(t/ha)	1.67	1.55	1.76 (1.77)	-	13.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds:World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (October 2008)」

世界の生産量シェア 3位(2008/09年度21.1%)  
輸出量シェア 3位(2008/09年度17.9%)

表-6 アルゼンチンの大豆需給(市場年度:10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.5	50.5 (49.5)	-	8.6
消費量	35.1	36.4	38.5 (39.5)	▲0.5	5.8
うち搾油用	33.6	34.9	37.0 (37.8)	▲0.5	6.0
輸出量	9.6	13.5	14.1 (12.3)	0.2	4.4
輸入量	2.0	3.0	3.4 (3.2)	0.0	13.6
期末在庫量	22.6	22.1	23.4 (26.4)	0.8	5.5
期末在庫率	50.6%	44.4%	44.4% 50.9%	1.7	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.37	18.00 (17.85)	-	10.0
単収(t/ha)	2.99	2.84	2.81 (2.77)	-	▲1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds:World Markets and Trade」  
「World Agricultural Production」  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (October 2008)」

### 3 なたね

#### (1) 国際的ななたね需給の概要

##### ○2008/09年度のなたね需給（予測）のポイント

なたねの供給面では、EU等で小麦の作付面積の拡大との競合による作付面積の減少があるものの、比較的良好な天候を背景に世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、EU、カナダ等でバイオディーゼル需要の拡大に伴う搾油用需要の増加を中心に世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇するものの、依然として低水準であると見込まれている。

##### 【生産量】

生産量は、EU、中国、カナダ等の主要生産国で増加することから、世界全体では前年度より5.9百万トン増加（12.1%）し、54.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、EUが上方修正された。

##### 【消費量】

消費量は、原油価格の高騰によるバイオディーゼル需要の増加などから油糧種子全般での需要増大により、EU等で搾油需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より3.2百万トン増加（6.3%）し、51.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに上方修正されており、国別にはEUが上方修正された。

##### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より1.4百万トン増加（17.4%）し、9.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、オーストラリアが生産量の回復により輸出量を増加させるものの、カナダは輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、生産国でもあるEUが域内のなたね需要を満たすため、輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正されており、国別にはEUの輸出量が上方修正、パキスタンの輸入量が下方修正された。

##### 【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、カナダ等で積み増しされ、世界全体では前年度より1.5百万トン増加（44.7%）し、4.9百万トンとなり、期末在庫率も9.3%まで上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別にはカナダ等で上方修正された。

表－1 世界のなたね需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>45.2</b>	<b>48.2</b>	<b>54.1</b>	<b>0.7</b>	<b>12.1</b>
EU-27	16.1	18.4	19.2	0.1	4.3
中国	11.0	10.4	11.0	-	6.0
カナダ	9.0	9.5	10.9	0.5	14.4
インド	5.8	5.5	5.8	-	6.4
ウクライナ	0.6	1.1	2.8	-	154.5
オーストラリア	0.6	1.1	1.6	-	50.2
ロシア	0.5	0.6	0.7	-	10.8
<b>消費量</b>	<b>46.5</b>	<b>48.7</b>	<b>51.9</b>	<b>0.0</b>	<b>6.7</b>
うち搾油用	43.8	46.3	49.1	0.0	6.1
EU-27	16.6	19.1	20.5	0.1	7.1
中国	11.9	11.2	11.7	-	4.7
インド	6.4	5.9	5.9	-	1.4
カナダ	4.0	4.2	4.7	-	12.5
日本	2.2	2.2	2.3	-	5.1
パキスタン	1.1	1.0	1.2	▲ 0.0	17.8
メキシコ	1.1	1.2	1.3	-	4.2
<b>貿易量</b>	<b>6.6</b>	<b>8.4</b>	<b>9.8</b>	<b>0.1</b>	<b>17.4</b>
(輸出)					
カナダ	5.4	5.9	5.3	-	▲ 9.4
ウクライナ	0.5	0.9	2.3	-	148.3
オーストラリア	0.2	0.6	0.9	-	62.7
米国	0.2	0.4	0.4	-	▲ 19.5
EU-27	0.1	0.4	0.4	0.1	2.3
ロシア	0.1	0.1	0.1	-	118.8
パキスタン	0.0	0.1	0.1	-	8.1
(輸入)					
日本	2.2	2.2	2.3	-	4.5
EU-27	0.4	0.7	1.9	-	169.7
メキシコ	1.0	1.2	1.3	-	4.2
パキスタン	0.8	0.9	1.0	▲ 0.1	17.6
米国	0.6	0.9	0.7	0.0	▲ 15.2
中国	1.0	0.8	0.7	-	▲ 12.5
アラブ	0.3	0.5	0.6	-	18.0
<b>期末在庫量</b>	<b>4.4</b>	<b>3.4</b>	<b>4.9</b>	<b>0.6</b>	<b>44.7</b>
EU-27	1.4	1.0	1.2	▲ 0.0	16.2
カナダ	1.8	1.5	2.6	0.5	72.6
オーストラリア	0.3	0.2	0.4	-	58.6
日本	0.1	0.1	0.1	-	▲ 2.9
ロシア	0.1	0.1	0.1	0.0	2.1
米国	0.1	0.2	0.2	0.1	14.0
インド	0.5	0.1	0.1	-	▲ 50.0
<b>期末在庫率</b>	<b>9.5%</b>	<b>6.9%</b>	<b>9.3%</b>	<b>1.2</b>	<b>2.5</b>

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、バイオディーゼル需要を背景としたなたね価格の高騰による作付け拡大や、単収の回復基調により、前年度より1.4百万トン増加（14.4%）し、10.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（12.5%）し、4.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、EU、中国等の他の主要生産国での生産量の増加に伴い前年度より0.6百万トン減少（▲9.4%）し、5.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加（72.6%）し、2.6百万トンとなり、期末在庫率も25.7%（10.9ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、単収の上方修正により生産量が0.5百万トン上方修正され、期末在庫量も0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダのなたねは、現在、収穫を終えている。一時天候不順が懸念されたものの、生育期間中は平均以上の降雨量と平年並みの気温で、概ね順調に生育したとみられる。単収及び品質ともに良好であり、昨年を上回る収量が見込まれている。

イ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、小麦と同様に2年連続の干ばつの影響で低下していたが、0.5百万トン増加（50.2%）し、1.6百万トンとなり平年並みに回復する見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（5.6%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より0.3百万トン増加（62.7%）し、0.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加（58.6%）し、0.4百万トンとなり期末在庫率も26.0%（3.9ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのなたねは、現在、生育期から収穫期を迎えている。全般的に乾燥傾向による土壌水分不足が懸念される中で7月下旬に降雨があり、なたねの生育の改善に繋がったと見られている。8月はウェスタンオーストラリア州南部の生産地帯などで乾燥傾向が続いていたが、9月に入り、平年以上の降雨があった。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース92.9%）  
世界の生産量シェア 3位（2008/09年度20.1%）  
輸出量シェア 1位（2008/09年度54.0%）

表-2 カナダのなたね需給（市場年度：8月～翌年7月）

（単位：百万トン）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.0	9.5	10.9 (10.4)	0.5	14.4
消費量	4.0	4.2	4.7 (4.7)	-	12.5
うち搾油用	3.6	4.0	4.2 ...	-	4.7
輸出量	5.4	5.9	5.3 (5.5)	-	▲ 9.4
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	13.0
期末在庫量	1.8	1.5	2.6 (1.9)	0.5	72.6
期末在庫率	19.5%	14.9%	25.7% (18.6%)	4.8	10.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	5.24	6.23	6.32 (6.32)	-	1.4
単収(t/ha)	1.72	1.53	1.72 (1.64)	0.08	12.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
AAFC「Grains and Oilseeds (September 17, 2008)」

我が国の輸入先国シェア 2位（2007年数量ベース 7.0%）  
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 3.0%）  
輸出量シェア 3位（2008/09年度 9.1%）

表-3 オーストラリアのなたね需給（市場年度：12月～翌年11月）

（単位：百万トン）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	0.6	1.1	1.6 (1.6)	-	50.2
消費量	0.5	0.5	0.6 (0.7)	-	5.6
うち搾油用	0.5	0.5	0.5 (0.7)	-	5.9
輸出量	0.2	0.6	0.9 (0.9)	-	62.7
輸入量	0.1	0.0	0.0 (0.0)	-	0.0
期末在庫量	0.3	0.2	0.4 (0.0)	-	58.6
期末在庫率	36.7%	22.0%	26.0% (0.0%)	-	3.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.05	1.06	1.20 (1.22)	-	13.2
単収(t/ha)	0.54	1.00	1.33 (1.35)	-	33.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」  
ABARE「Australian crop report (September 2008)」

## ウ EU-27

### 【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における小麦の生産調整面積が適用されないことによる小麦の作付拡大により、小麦の転作作物であり作付が競合するなたねの収穫面積が減少するものの、温暖な冬の天候などにより単収が増加することから前年度より0.8百万トン増加(4.3%)し、19.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、原油価格の高騰によるバイオディーゼル需要の増加などから搾油需要が増加し前年度より1.4百万トン増加(7.1%)し、20.5百万トンとなる見込みである。

EU域内需要の増加に伴い、輸出量は前年度よりわずかに増加(2.3%)し、0.4百万トンとなり、輸入量は前年度より1.2百万トン増加(169.7%)し、1.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加(16.2%)し、1.2百万トンとなり期末在庫率も5.7%(0.4ポイント増)と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積を下方修正したものの単収を上方修正したことにより生産量を0.1百万トン上方修正した。また、消費量、輸出量も0.1百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

EUでは全般的には、比較的生育に適した天候に恵まれたことから、良好な作柄となった。なたねの収穫は8月頃に終了している。

## エ 中国

### 【需給状況】

中国の生産量は、価格の高騰などにより作付意欲が高まり、前年度より0.6百万トン増加(6.0%)し、11.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加(4.7%)し、11.7百万トンとなる見込みである。

輸入量は、生産量が回復することなどから0.1百万トン減少(▲12.5%)し、0.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2007/08年度のなたねは昨年の10月に作付けされたが、今年初めの大寒波により主要生産地で被害を受けた。開花期や成熟期の間、天候に恵まれたことから単収は回復し、収穫は5月頃に終了している。2008/09年度のなたねは揚子江流域では9月下旬から作付けが始まったが、四川省を中心とする一部地域では、過度の降雨で苗の生育に影響が出ている。

世界の生産量シェア	1位 (2008/09年度35.5%)
輸出量シェア	5位 (2008/09年度 4.1%)

表-4 EU-27のなたね需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	16.1	18.4	19.2 (19.0)	0.1	4.3
消費量	16.6	19.1	20.5 (20.2)	0.1	7.1
うち搾油用	15.7	18.2	19.6 (19.4)	0.1	7.5
輸出量	0.1	0.4	0.4 (0.3)	0.1	2.3
輸入量	0.4	0.7	1.9 (1.7)	-	169.7
期末在庫量	1.4	1.0	1.2 (1.0)	▲0.0	16.2
期末在庫率	8.6%	5.2%	5.7% (5.1%)	▲0.1	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.41	6.57	6.30 (6.29)	▲0.07	▲4.2
単収(t/ha)	2.98	2.80	3.05 (3.02)	0.05	8.8

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (October 2008)」

世界の生産量シェア	2位 (2008/09年度 20.3%)
輸入量シェア	6位 (2008/09年度 7.1%)

表-5 中国のなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	11.0	10.4	11.0 (11.5)	-	6.0
消費量	11.9	11.2	11.7 ...	-	4.7
うち搾油用	11.5	10.7	11.2 (11.5)	-	4.7
輸出量	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
輸入量	1.0	0.8	0.7 (0.9)	-	▲12.5
期末在庫量	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
期末在庫率	0.0%	0.0%	0.0% ...	-	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.00	5.70	6.00 (6.82)	-	5.3
単収(t/ha)	1.83	1.82	1.83 (1.69)	-	0.5

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (October 2008)」

## オ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、単収が低下するものの収穫面積が回復する見込みであることから、前年度より0.3百万トン増加（6.4%）し、5.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度と同水準の5.9百万トンとなる見込みである。

輸出品、輸入品とも貿易の実績はほとんどない。

この結果、期末在庫量は、前年と同水準の0.1百万トンとなり、期末在庫率は0.8%（0.9ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

なたねは作付けが始まったところであり、翌年の2月から3月にかけて収穫が行われることから、今後の天候に注視が必要である。

（世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 10.7%））

表－6 インドのなたね需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.8	5.5	5.8 (6.2)	-	6.4
消費量	6.4	5.9	5.9 ...	-	1.4
うち搾油用	5.7	5.2	5.3 (5.4)	-	1.1
輸出品	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
輸入品	0.0	0.0	0.1 ...	-	300.0
期末在庫量	0.5	0.1	0.1 ...	-	▲ 50.0
期末在庫率	7.7%	1.7%	0.8% ...	-	▲ 0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.64	5.70	6.20 (6.30)	-	8.8
単収(t/ha)	0.87	0.96	0.94 (0.98)	-	▲ 2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」、  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (October 2008)」

### Ⅲ 今月のトピックス

#### 【米国におけるバイオエタノール政策・産業の展開と課題】

「農林水産政策研究所は、農林水産政策研究所レビュー（10月15日発行）において、米国のバイオエタノール産業の動向と今後の課題に関する内容（2008年8月現在）を掲載したので、その一部を紹介する。」

#### 1 どうもろこし価格上昇とバイオエタノール産業の動向

原料であるとうもろこし価格が2006年後半から上昇しているのに対して、バイオエタノール価格が原料ほど上昇していない状況にあり、原料価格であるとうもろこし価格上昇率は製品価格であるバイオエタノール価格上昇率を上回って推移している。

これを踏まえ、バイオエタノール産業の収益状況について以下のように解説している。

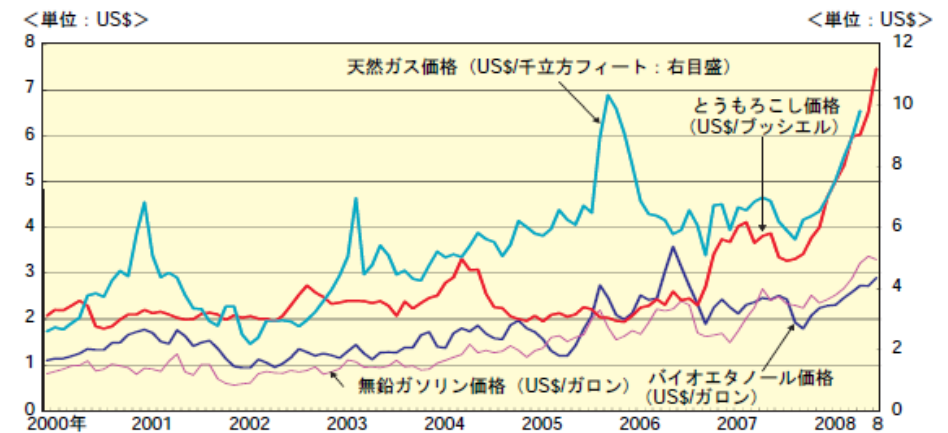
バイオエタノール生産全体コストのうち原料代は、全体の約8割を占めているため、原料代上昇がコスト上昇の最大の要因である。こうした状況は収益を圧迫していると考えられる。これに加えて、バイオエタノール生産に使用する天然ガス価格も上昇している。つまり、バイオエタノール生産に当たっては、原料価格・エネルギーコストの上昇分が製品価格上昇に追いついていない状況となっている。このため、バイオエタノール産業の収益は2006年にはかなり良好であったが、2007年から減少、2008年には利益が出ない状況にあり、バイオエタノール産業の収益が悪化しているものと考えられる。

#### 2 バイオエタノール産業の今後の課題

米国政府が、バイオ燃料需要拡大が食料価格上昇に与えた影響は小さいと主張し、今後は、食料とは競合しないセルロース系原料からのバイオエタノール生産を拡大していく方針を示しているが、今後のセルロース系原料からのバイオエタノール生産拡大の見通しについては技術開発次第としか言えない状況にある。このような中で、米国エネルギー省が2008年7月に発表した中長期見通しでは、現在設定されているセルロース系原料の再生可能燃料基準が今後、下方修正されるという予測結果を発表したことからも、セルロースからのバイオエタノール生産が「2007年エネルギー法」における再生可能燃料基準どおりに拡大するか否かは不透明な状況にあることを紹介している。

これを踏まえ、バイオエタノール産業の今後の課題等を以下のように結んでいる。

図－1 米国におけるバイオエタノール・とうもろこし等の推移



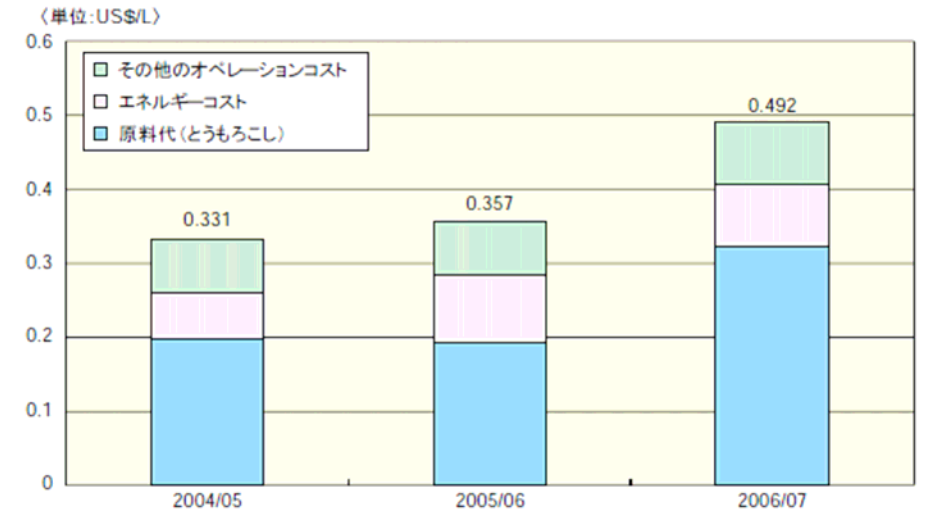
資料：USDE (2008)、USDA (2008)、Nebraska Government (2008)。

注：とうもろこし価格については、シカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格。

バイオエタノール・無鉛ガソリン価格については、F.O.B オマハ、ネブラスカ価格の月平均価格。

天然ガス価格は US Natural Gas Wellhead Price。

図－2 米国におけるバイオエタノール生産コストの推移

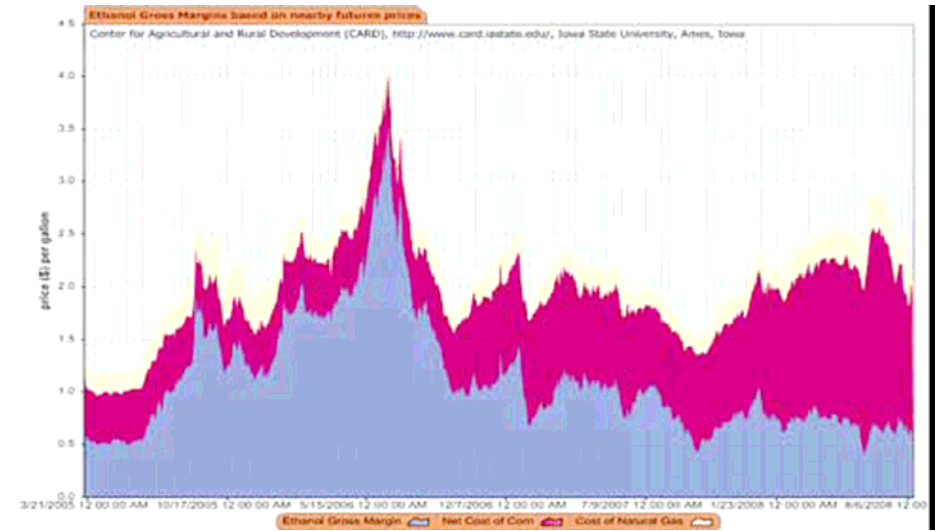


資料：F.O.Licht (2007)

バイオエタノール産業全体としては、これまで高収益を得ることにより、事業の拡張が進んできたが、最近では原料であるとうもろこし価格上昇率がバイオエタノール価格上昇率を大幅に上回っていること等により、バイオエタノール産業の-marginが減少している状況にある。これまでのバイオエタノール生産の拡大による原料であるとうもろこしの価格上昇がバイオエタノール産業の収益減少を引き起こし、その結果、2008年に入り、新規プラントの建設の中止・見直しが行われている状況にある。今後も、こうした傾向が続けば米国のバイオエタノール産業においても再編・合理化が進むものと考えられる。これまでは、政府によるバイオ燃料関連施策の推進により、バイオエタノール需要が拡大し、産業の成長を支えてきたが、皮肉にもこの成長が原料であるとうもろこしの価格上昇といった事態を引き起こし、産業の成長に制約を与えている。

バイオエタノール産業の拡張は、とうもろこしの価格上昇を引き起こす要因のみがこれまでは注目されてきたが、これは同時にバイオエタノール産業成長の制約要因となってきた。こうした状況に、米国政府が有効な政策を打ち出せない状況下、今後のとうもろこし価格の動向が今後のバイオエタノール生産にも大きな影響を与えると考えられる。

図-3 バイオエタノールマージンの推移



資料：CARD (2008)

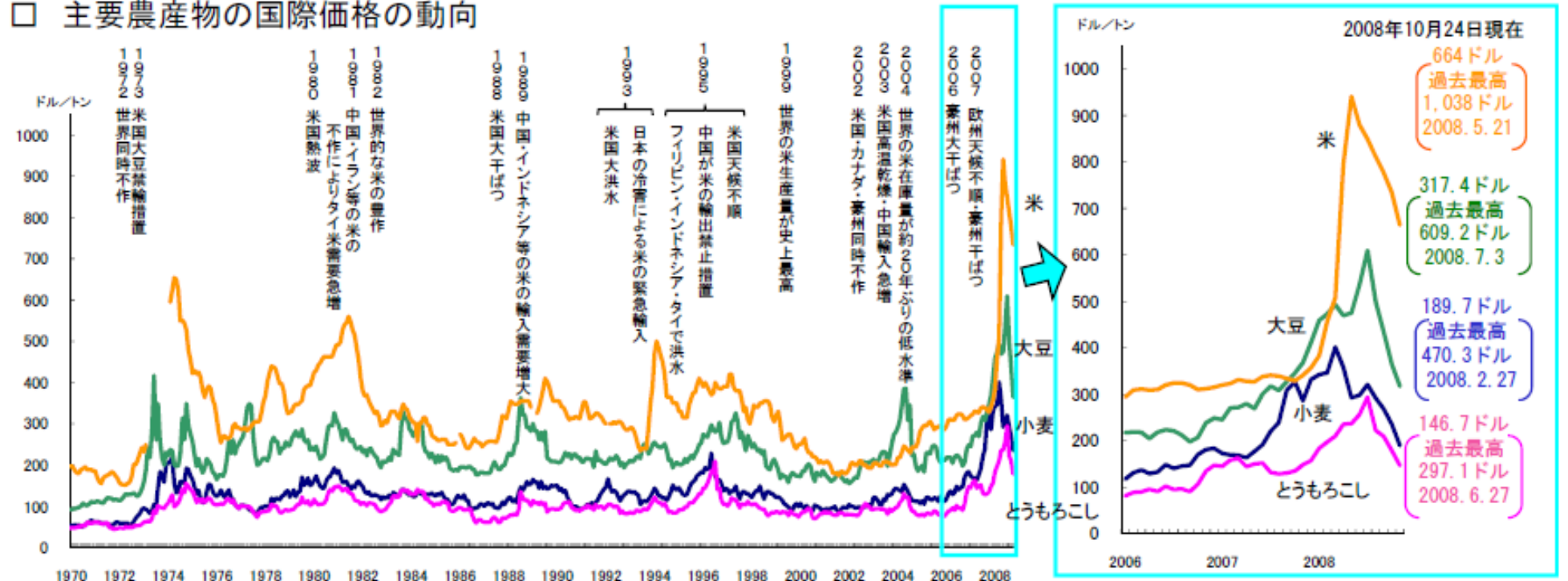
※ 上記の詳細は、農林水産政策研究所レビューNo. 29 (2008年10月15日)の動向分析「米国におけるバイオエタノール政策・産業の展開と課題」をご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.maff.go.jp/primaff/koho/seika/review/review29.html>

【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移。その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあるが、基本的には、穀物の種類によって差異はあるものの、
  - ① 中国やインド等の途上国の経済発展による食料需要の増大、
  - ② 世界的なバイオ燃料の原料という食料以外の需要の増大、
  - ③ 地球規模の気候変動の影響
 といった中長期的に継続する構造的な要因があり、こうした状況の中で、輸出国による輸出規制も影響している。
- なお、米については、農産物の中でも特に貿易量の割合が低く、輸出を少数かつ特定の国で占めている中で、ベトナム、インド等の主要輸出国で輸出規制が相次いで実施されていることが、主な要因となっている。
- 現在は、小麦の豊作予測などに加え、金融不安による株価の低迷等を背景として、商品市場からの資金流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念などから最高値に比べ大幅に低下したものの、依然、一昨年秋頃に比べ米で2倍、その他は1.5倍前後の水準。なお、国際機関による食料需給状況の中長期展望からは、当面、従来に比べ高い水準の価格が続くものと見込まれている。

□ 主要農産物の国際価格の動向



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。  
 米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注1：各月第1金曜日(米は第1水曜日)に加え、直近の最終金曜日(米は最終水曜日)を記載  
 注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格

## 【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて調査した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC等) の公表資料、民間の調査会社 (Oil World、インフォーマ社情報等) から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者によるワーキンググループ (※参照) において検証、整理、分析したものである。

※ワーキンググループメンバー：

大臣官房食料安全保障課、大臣官房国際部国際政策課、主要穀物等の所管課 (総合食料局食品産業振興課、食糧部計画課、食糧貿易課、生産局畜産部畜産振興課)、食品産業関係課 (総合食料局食品産業振興課、生産局生産流通振興課、畜産部畜産振興課)、農林水産政策研究所

- 海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が10月28日までに発表した当月分の情報を引用している。さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページ (<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>) を参照されたい。

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates (October 2008)」、  
「Grain: World Markets and Trade (October 2008)」、  
「Oilseeds: World Markets and Trade (October 2008)」、  
「World Agricultural Production (October 2008)」、  
「PS&D (October 2008)」 など

注：2008年10月28日に米国農務省から「World Agricultural Supply and Demand Estimates (October 2008)」における米国のとうもろこし、ソルガム、大豆の数値の修正が公表された。ただし、世界の需給データの集計値等については、修正値が公表されず11月の公表段階で反映されることとなっている。本レポートでは、米国の修正値に基づき世界計等を再集計したデータを用いて作成しているため、米国農務省の公表データと一致しない場合がある。

- 2008/09年度の数値は予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されるものである。また、2006/07年度、2007/08年度の数値も、公式統計の確定・発表などを受けて今後変更されることがある。したがって、本資料に掲載している数値を利用する際は、今後変動しうる数値である点に留意いただきたい。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として設定されている。同じ市場年度であっても、国、作物によって年度の開始月は異なる。収穫の時期が1年間に2回ある作物の場合は、どちらか一方の収穫時期に合わせて市場年度が設定されている。  
例：米国小麦の2008/09年度は、2008年6月から2009年5月であり、この時期に収穫される作物に関して予測が行われる。2008/09年度であれば、2007年9月～10月に作付けされ2008年6月～7月に収穫される冬小麦と、2008年4月～5月に作付けされ2008年8月～9月に収穫される春小麦が、予測の対象となる。  
各国別、作物別の市場年度は、米国農務省のホームページに掲載されている。  
<http://www.fas.usda.gov/psdonline/psdAvailability.aspx>
- 「今月のトピックス」については、干ばつ等の異常気象など特に注目すべき情報や各種機関等から最近公表された食料需給等に関連するレポートの内容の紹介など、さまざまな関連情報について提供することを目的としたものである。
- 本資料の引用等については、出所 (農林水産省発行「海外食料需給レポート (Monthly Report)」) を併記されたい。